



Annual Report 2016

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

The Creed of Junior Chamber International We Believe : That faith in God gives meaning and purpose to human life;That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;That economic justice can best be won by free men through free enterprise;That government should be of laws rather than of men;That earth's great treasure lies in human personality:and That service to humanity is the best work of life.

Annual Report

2016

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA



<http://www.osaka-jc.or.jp/>

誠 心 響き合う 共創都市 大阪の実現

Contents

- 02 青年会議所とは
- 04 理事長所信
- 06 2016 年度 組織図
- 08 理事長あいさつ
- 09 直前理事長あいさつ
- 10 役員あいさつ
- 14 2016 年度 JCI 大阪の活動
- 22 会員開発委員会 高橋委員会
- 25 会員開発委員会 藤本委員会
- 28 子どもの未来共創室
- 29 未来の誠心発掘委員会
- 32 社会の誠心継承委員会
- 35 子どもの誠心育成委員会
- 38 大阪の未来共創室
- 39 大阪の未来選択委員会
- 42 大阪の誠心創造委員会
- 45 世界の未来共創室
- 46 次代の誠心育成委員会
- 49 世界の誠心循環委員会
- 52 会員交流室
- 53 会員交流委員会
- 56 国内涉外委員会
- 59 国際涉外委員会
- 62 総務室
- 63 JCI 大阪発信委員会
- 66 資質向上委員会
- 69 総務財政委員会
- 72 月例会
- 73 会員大会・卒業式
- 76 2016 年度 会員褒賞
- 78 2016 年度 メディア掲載一覧
- 80 2016 年度 主な広報制作媒体

Annual Report 2016 JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA

The Creed of Junior Chamber International We Believe : That faith in God gives meaning and purpose to human life;That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;That economic justice can best be won by free men through free enterprise;That government should be of laws rather than of men;That earth's great treasure lies in human personality;and That service to humanity is the best work of life.

青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所（商工会議所法制定にともない青年会議所と改名）設立から、日本の青年会議所（JC）運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要なメンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所（日本JC）が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条（トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」、フレンドシップ「世界を結ぶ友情」）のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所（JCI）のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意志によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。（但し入会資格は満25歳から37歳まで）これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会议員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

大阪青年会議所の歴史

1950年	大阪青年会議所創立	
1951年	日本青年会議所創立	
1957年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始	
1962年	「JCI アジアコンファレンス」を大阪にて開催	
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供	
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催	
1974年～83年	「淀川マラソン」を実施	
1980年	「JCI 世界会議大阪大会」を開催	
1980年～	「キッズスワップ（交換ホームステイ）」を開始	
1980年～89年	「国際シンポジウム」を開催	
1981年	「TOYP（The Outstanding Young Person）大阪会議」を開催	
1982年	「わんぱく相撲」を実施	
1985年～	天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加	
1986年	「Save The Children Japan (SCJ)」設立（大阪JCが中心となって設立）	
1990年～93年	「エスノポップイン大阪（アジアの音楽祭）」を開催	
1992年	「地球市民大阪ひろば（市民参加型集約事業）」を実施	
1995年	阪神淡路大震災における組織的支援活動	
	国連広報局よりNGOとして承認	
1996年	「大阪NPOセンター」設立（大阪JCが中心となって設立）	
	「大阪モデル国連会議（OMUN）」開催	
1997年	「ふれ愛ピック大阪後夜祭」を実施	

第33回全国身障者スポーツ大会の後夜祭を運営し、多くの市民の皆さんと感動を共有

JC宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する
確かな時代を築くために
率先して行動することを
宣言する

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を
築き上げよう

1998年	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催
2000年	大阪JC創立50周年記念植樹「大阪JC実りの森」を実施 「大阪JC創立50周年記念式典・祝賀会」開催
2001年	「日本JC第50回全国会員大会大阪大会」開催
2002年	「豊かな地球創造ミッション」を実施
2003年	次世代教育推進事業「根っ子学校」設立提言
2004年	「淀川どろんこ探検隊」実施 絵本『くものコレース』出版
2005年	「大阪市長選公開討論会」実施 『もうあきまへん浪速独立宣言』出版
2006年	「アメリカ村落書き消し事業」実施
2007年	社会人講師を学校に派遣した「フレ愛応援団事業」実施
2008年	インド・ニューデリーのJCI世界会議にて、 「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定
2010年	「大阪JC創立60周年記念式典・祝賀会」開催 「第65回JCI世界会議」を大阪にて実施
2011年	公益法人制度改革に伴う法人格選択で、「一般社団法人」を選択
2012年	「第67回JCI世界会議台北大会」でプノンペンJCとシスターJC締結
2013年	淀川「花は咲く」プロジェクト実施
2014年	一般社団法人へ法人格を移行
2015年	「大阪JC創立65周年記念式典」開催



第65回JCI世界会議大阪大会



創立65周年記念式典

誠心響き合う共創都市 大阪の実現

挑戦と挫折、その繰り返しのたびに、個人の無力さを知り、チームの中で生かされている自分を感じ、チーム一丸となって挑むことの強さを実感した。周囲に生かされているという事実、それはフィールドから社会に舞台が移ろうとも変わらないことだった。私利私欲のために個人で挑むのではなく、公のために同志の力を束ねて立ち向かわなければならない。誠心を胸に取り組めば、道は拓かれ、必ずや周囲が動き出し、社会は変わる。

「誠心」、それは、「自らと向き合い、万物に感謝し、公に資する心」。

私は、誠心を基軸に、常に自らを位置づけ、常にすべてを受け止め、常に公に向き合いたい。第二の戦後と言われる今だからこそ、周囲への優しい心と公への強い心の響き合うしなやかな誠心を取り戻し、連帯感ある行動へと昇華させて、大阪と日本、そして世界の活力みなぎる未来を後世に贈り継ぎたい。

日本は、戦後70年を経て奇跡的経済発展を遂げ先進国の一角を占めるに至りました。しかし、経済的、個人的価値に慣れ親しむあまり、日本人の心の拠り所として世界に誇るべき精神性である「誠心」を見失いつがります。わが国を取り巻く環境は決して安穏としたものではなく、少子化と高齢化による人口構造の変化、財政悪化、近隣諸国をはじめとする国際社会との関係変化等、喫緊の課題を抱えています。いわゆる「大阪都構想」の是非を問う住民投票によって、大阪の人びとは、未来の選択と一票の重みをかつてないほど実感しました。結果として賛否の大差はなかったものの、未来を選択する機運はこれまでにないほど高まったのです。顧みれば、ここ大阪は、周囲を慮り公に尽くす想いを土台にして、立場を越えて協力関係を成し発展を遂げてきた都市です。

65年にわたり大阪の未来のため不断の努力を続けてきた私たち大阪青年会議所は、機運高まる今、自らと向き合い万物に感謝し公に資するという、人びとの心に眠る想いを呼び覚まして響き合わせ、連帯感あふれる共創の中核とならなければなりません。活力みなぎる未来を後世に贈り継ぐべき私たちは、利己と現状にまやかされず大局的に捉え、変化を恐れずに未来の姿を常に想い描き、身近になる多様性を寛大に受け止め、万物に感謝する優しさと公に資する強さを交差させて、しなやかな誠心を搖るぎない基軸とし、公の未来に対する想いを行動へと昇華させる、誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

世代を越えて子どもの未来を共創

親として、一人の大人として次代を担う子どもたちを想うとき絶対に忘れてはならないことがあります。それは、自らがいかなる想いを受けて育ててもらったかということです。それは決して過度に護り成績や成果を第一に望むという想いではなかったはずです。子どもたちは、遠くない将来自らの足で歩みはじめ、いつしか親のもとを離れ、さらにはまた一人の親として子を育てる日を迎えます。親の役目は子を親となり得る大人へと育てること。そしてそれは、子どもだからという目線ではなく、未来を共に創り出す一人の人として誠実かつ寛容に向き合うこと、つまり子どもたちに対する誠心から始まるのです。

無邪気に喜んだり、目を輝かせて感動したり、自らの力で乗り越えようと何度も試行錯誤し、小さな成功や失敗を繰り返して何かを感じる子どもたちの横で、私たち大人は常にそっと寄り添い、同じ目線でものごとを捉えて耳を傾け子どもたちの感じていることを理解した上で、成り行きを見届けたり背中を押したりしてやる、そうした親と子の共同作業をもっと拡げていかなくてはなりません。また、子どもたちに本当に必要なものが何であるかを話し合い、家庭や親子関係を越えて子どもたちを育むという大人同士の協力関係も重要でしょう。さらに、自ら挑戦して学んだことを土台に他者を慮る心や豊かな感受性を育み、大人になってからの共創の礎となる子どもたち同士の切磋琢磨をそっと支えなければならないのです。

私たち大人は、子どもたちの未永い未来とさらにその次代をも誠心をもって考え、子どもたちが人びとのふれあいの中で原体験を手に入れることができるよう、さらには、多様性を受け止める豊かな感受性を持てるよう見えない支えとなり、世代を越えて豊かな次代を創り出す誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

私事を越えて都市の未来を共創

課題先進国日本の中でも大阪を取り巻く社会情勢にはとりわけ厳しいものがあります。大都市としての形や規模を有してはいるものの、大都市の中でも加速度的に高齢化が進みつつある大阪は、実は日本の中でも指折りの課題先進都市なのです。人口構造の改善のためにはまず、女性や高齢者の社会参画といった都市構造の変革が必要です。女性が働きやすい環境が整備され、高齢者の活力を活かす仕組みが整備されれば、それは都市の構造を徐々に変え、新たな都市の姿を創り出していくことでしょう。しかし実際にはそれぞれの事情や背景があり、理想的にことが進まないのは当然です。同様に、訪日外国人の急増は、経済的メリットをもたらす一方で様々な弊害を引き起こしています。今後ますます増えるであろう外国人受け入

一般社団法人 大阪青年会議所 第66代理事長
城阪 千太郎
Sentaro Shirosa



れの在り方についてもそれぞれの立場によって意見が異なるのです。

だからこそ、かかわるすべての人びとが大阪という都市の未来を誠心をもって捉え、可能な限りの公を支え合う関係を築き上げることが重要です。市民はもちろん、企業も行政も諸団体も大阪を構成するすべてが立場や事情を越えて、大阪全体としての未来を創り出していかなければならないのです。

いわゆる「大阪都構想」の是非を問う住民投票の結果が教えてくれたものは、立場の異なる人びとがひとつにまとまるためには、本質を見極め、私事を越えて、少しづつ譲り合う関係が必要だということです。また、公職選挙法改正により選挙権年齢が18歳以上に引き下げられることでより多様な意見が顕れることとなり、大阪の未来を慮る誠心を若い世代に拡げることが未来を拓いていくために不可欠なのです。

異なる文化を受け入れ、数多くの斬新なアイデアを世界に先駆けて生み出し、独特の文化を世界に発信し、文化も経済も民が牽引し発展させてきた大阪。課題の押し迫る今だからこそ、私たちは、様々な立場の一人ひとりが大阪を大きなひとつと捉えて自らの役割を果たし、私事を越えて都市の未来を拓く誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

国境を越えて世界の未来を共創

国際社会における日本の役割が大きく変わりつつある中、大阪の繁華街にはアジアをはじめとする訪日外国人があふれています。また、大変残念なことに紛争はテロリズムへと変貌し、私たち日本人が海外で残忍な被害に合う事例もよく耳にする時代となりました。めまぐるしく変化し続ける国際社会との関係性に無関心ではいられない時代となり、単に日本から世界が近くなっただけではなく、世界からも日本や大阪が近い存在となったのです。もとより国際組織の一員である私たちは65年間にわたる信頼にもとづく世界とのつながりを多く有しています。このつながりを積極的に活用し、多様性を受け止めて刺激に変え創造力あふれる国際都市大阪への歩みを進めなければなりません。また、訪日外国人があふれ世界から近くなった大阪は、より強い世界への発信力を手に入れました。経済面ではイノベーションや研究開発の成果、精神面では周囲や公に資する心や大阪らしい親しみやすさ、これらをはじめとする私たちの強みや精神性を広く世界に発信する絶好の機会がやってきたのです。私たちが培ってきた世界との関係を活かし、より効果的に世界に発信しました受け止める互いの関係を積み重ねて未来の姿を共有する関係へと昇華させなければなりません。

私たちはいま一度国際社会における役割を見つめ直すべきときを迎えています。戦後一貫して歩んできた平和国家の礎ともいえる精神性、古来多様性を友好的に受け止めてきた大阪人らしさ、これら誠心にもとづく誇るべき精神性が私たちの強みです。そして、その強みを活かして国境を越えて支え合う課題解決モデルを世界中に発信することこそ私たちにしかできない世界への最大の貢献なのです。私たちは、世界から求められている自らの役割を再認識し、搖るぎない価値観で持続可能な世界の発展に貢献し、恒久的世界平和の達成に国境を越えて貢献し得る誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

今こそ共創の中核に

戦後復興と高度経済成長とその曲がり角を経験して先進国の一角を担うようになったわが国の青年会議所運動は、そのあり方を少しづつ変え時代の要請に応えてきました。ここ大阪においても、設立のその日より想いをタスキとして受け取っては新たな汗を加えて贈り続け、65年間にわたり文字通り連綿と紡ぎ続けてきたのです。大阪は今、これまでにない変化を求められています。まずは課題も含めた現状をあり様のまま受け止め、誠心を呼び覚まして未来への想いを研ぎ澄ませ、大阪全体に、日本そして世界中に広く強く拡げ、誠心響き合う共創を実現しなければなりません。そのために、大阪青年会議所は人びとの誠心の集約拠点として、また強い発信源として、中核的役割を担わなければならないのです。タスキを受け継いだ私たちは、変化への機運高まる大阪にこれまで以上に溶け込み、守るべきものを大切にしながら必要に応じて変化し、大阪という公に対するすべての想いを行動へと変えて未来の共創を実現しましょう。

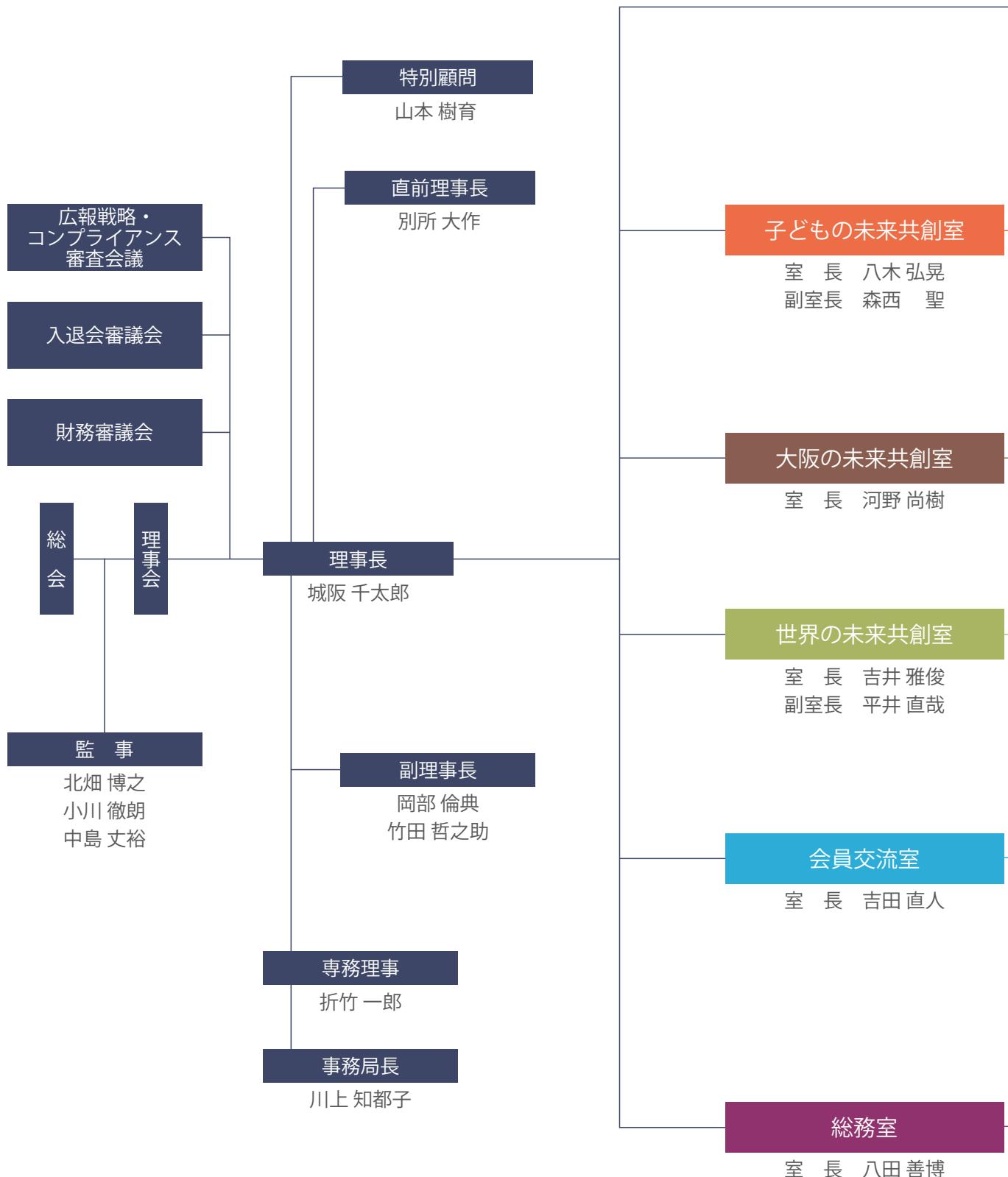
この時代に青年期を生きた証である新たな汗、それは時代を越えて燐然と輝き続けるに違いありません。私たちの、そして大阪中の優しさと強さが響き合うしなやかな誠心から滲み出る尊い汗をタスキに染み込ませて次代へと贈り継ぐ、それが今を生きる青年の使命なのです。

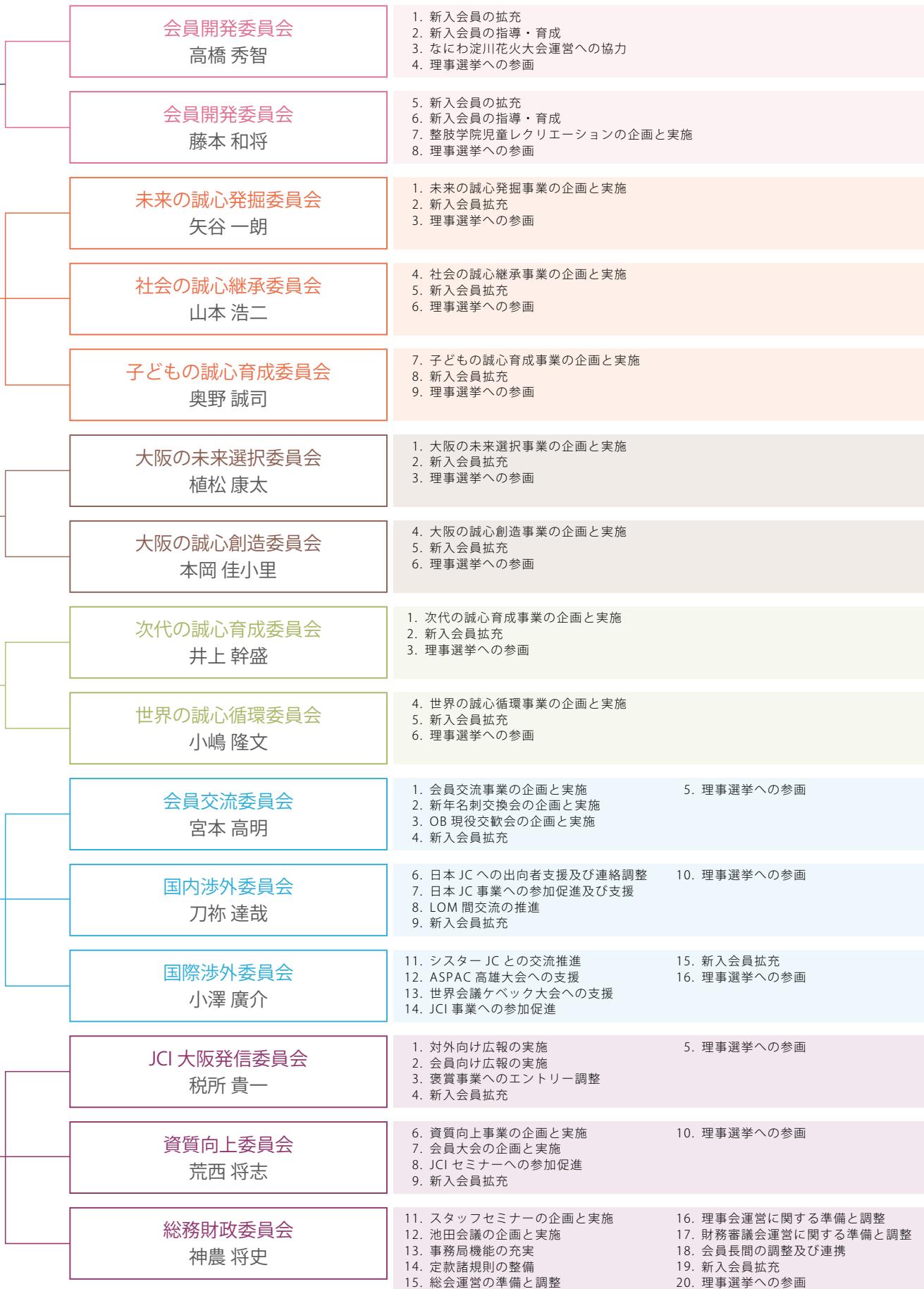
「至裁にして動かざる者は未だ之あらざるなり」

一人の想いがまた一人の想いを呼び、磨き合ってより清らかな想いになる。

誠心を響かせ合い未来を拓こう。

誠心響き合う共創都市 大阪の実現







一般社団法人 大阪青年会議所
第 66 代理事長

城阪 千太郎

Sentaro Shirozaka

2016 年度は、「誠心響き合う共創都市大阪の実現 ～優しく強いしなやかな誠心を磨き合い未来を拓こう～」をテーマに掲げ、一年間活動をしてまいりました。

日本は、戦後 70 年を経て奇跡的経済発展を遂げ先進国の一 角を占めるに至りました。しかし、経済的発展、個人的価値に慣れ親しむあまり、日本人の心の拠り所として世界に誇るべき精神性である「誠の心」を見失いつつあります。「誠心」とは、自らと向き合い、万物に感謝し、公に資する心。私利私欲のために個人で挑むのではなく、公のために同志の力を束ね、誠心を胸に立ち向かえば、道は拓かれ、必ずや周囲が動き出し社会は変わる、これこそが私たちの運動の本質であり、大阪の未来を共創することに他なりません。

「大阪都構想」に対する住民投票直後、そして選挙権年齢の 18 歳への引き下げを控えた時期であった本年、まずは私たち青年世代が誠心を呼び覚まし響かせ合うため、語り合いの機会を多く設け、290 名を超える新たな仲間を迎えることができました。子どもたちが大人との触れ合いの中で原体験を手に入れ豊かな感受性を持てるよう、世代を越えて豊かな次代を創り出す活動。大阪を大きなひとつと捉えて私事を越えて各々が役割を果たし、都市の未来を拓く活動。そして、搖るぎない価値観で世界の持続的発展と恒久的世界平和の達成に向けて国境を越えて貢献する活動。私たち大阪青年会議所が人びとに眠る誠心の集約拠点かつ発信源として中核的役割を担うべく、これらの活動に総勢 1100 名を超える 5 室 15 委員会の組織体制とその一人ひとりの奮闘で活動に臨みました。詳細な内容と成果については後述の室・委員会の報告をご確認いただければ幸いでございます。

また本年は、私たちと同じ想いを抱く大阪の皆様に私たちの活動を拡げ、共に未来を創り上げるという視点から、賛助的組織の構築にも取り組み、「Osaka Fun Fan Club」の設立に至りました。 本組織は、気軽さ気楽さ真剣さを重視し、様々な活動を通じて一人でも多くの市民の方が年齢や職種、生活の垣根を超えて「まちづくりに参加する」ための受け皿となるべく設立に至ったものです。

さらには、2016 年度、公益社団法人日本青年会議所第 65 代会頭として山本樹育君を輩出させていただき、大阪の枠を越えてその活動を拡げる機会を得ることができました。お支えいただきました関係各位の皆様方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。16 年ぶりの会頭輩出が、今後大きな価値として私たちの活動により一層の輝きと厚みを与えてくれることになるよう、いま一度襟を正し次年度以降のさらなる活動につなげてまいりたいと考えております。

最後になりますが、大阪市民の皆様、大阪市をはじめとする行政関係者の皆様、NPO、NGO、学校、企業、各種団体の皆様には多大なるご支援ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。世界では保護主義的な価値観が台頭しつつありますが、私たちの活動は必ずや世界を変えることにつながると信じ、2017 年度以降も活動を展開してまいります。今後も一般社団法人大阪青年会議所に対しまして変わらぬご理解ご支援とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。



一般社団法人 大阪青年会議所
直前理事長

別所 大作

Daisaku Bessho

戦後 70 年という大きな節目を終えて新たなスタートを迎える本年、英国の EU よりの独立、トランプ大統領の誕生など私たちが考える今までの常識を大きく変えざるえない時代の幕開けとなりました。

この様な時代の中、2016 年度一般社団法人大阪青年会議所は城阪千太郎理事長の下、誠心響き合う共創都市大阪の実現を掲げ力強く大阪のまちに運動を展開致しました。個人の私利私欲を煽り特定の人々の利益に誘導するポピュリズムが政治や国を動かす時代だからこそ、個人の利益を超えて周囲と共に鳴しそれぞれのステークホルダーと向き合いながらこの都市を創り上げていくという運動は正に今こそ求められるテーマであったかと思います。本年度は特に未来を担う子供、学生に対しての運動を中心に展開いたしましたが、私たち青年会議所運動の根幹は常に未来志向であるべきであり今後も引き続き子供たちの人間形成の根幹となる感性を磨く運動を展開して欲しいと思います。

また、運営面に関しましては OB 諸兄、関係各位のご協力のお陰をもちまして本年多くの新入会員を迎えることができました事、この場をお借りいたしまして心から感謝申し上げます。一方、組織の拡大が組織の充実に直結するわけではありません。我々は都市に有益な団体であり続けるために改めて運営面でもしっかりと検証して、反省るべき点は改善し、時代の流れを読み取り力強い組織への変化を求められています。次年度以降も時代に常に求められる組織であり続けて欲しいと思います。

結びになりますが、本年は山本樹育君を第 65 代日本青年会議所会頭として輩出した年でもありました。日本の公に資する良心を拡げる運動はまさに今こそ世界の中で日本が果たすべき役割であったと思います。大阪から日本、世界へと先輩諸兄の積み重ねられてきた運動が結実した年であり、新たな一歩を踏み出した一年であったと確信しております。直前理事長として一年間本当に多くの関係各位に大変にお世話になりましたことを厚く御礼申し上げアニュアルに対しての寄稿とさせて頂きます。



特別顧問

山本 樹育

Shigenari Yamamoto

戦後間もなく、祖国の国際社会への復帰と経済復興を大義として掲げ、現在の我々と同年代だった当時の青年経済人によって日本の青年会議所運動は興されました。そこから今に至るまで積み重ねた実績こそが、「青年」の大義が見事に果たされたことを雄弁に物語っています。そして、青年の運動の先導役となってきたのが大阪青年会議所でした。

様々な困難を乗り越えながらも経済的豊かさを達成した日本は今、新たなステージを迎えようとしています。

現在の世界は、行き過ぎたグローバリズムと投機マネーの暴走という濁流が渦巻いています。行き過ぎたグローバリズムは能率・効率の大義を振りかざし分業体制を世界的に広げ、国と地域の個性を失わせ、文化や社会をも画一化しまいかねません。本来資本主義においては、資本は繁栄のために投下される、いわば手段です。それが今や、低金利競争で生まれた膨大な投機マネーの出現、株式市場でのプログラムによる超高速売買など人の顔の見えない力ネガ力ネが生むマネーゲームの様相を呈し、世界的に富めるものはますます富み、貧困が固定化する中で、資本主義ひいては民主主義の秩序にさえも懷疑の目が向けられつつあり、一部の過激派は世界各地で公然とテロを起こしています。

そして国内に目を向けると、戦後70年を迎える少子化、高齢化、人口減少、財政問題、火山帯・活断層の活発化、エネルギー問題など、私たちは時を同じくして降りかかってきた国家的課題に取り組む「平成の建国」ともいべき新時代への岐路に立っています。

日本が、それぞれの地域が、次なる時代に向かって、国民一人ひとりが自らの価値基準に基づく真の豊かさを実感できるよう、また、対外的により大きな責任を果たせる国となるよう、根本的に発想を転換したうえで、新しい価値観とシステムを打ち出さなければならないのです。日本という国が21世紀における新しく鮮やかな「国家、社会のありかた」を率先して示すことが、世界への貢献につながるのです。

そのような時代において、青年会議所運動も進化を遂げなければなりません。

青年会議所の運動の目的とは、世の中を変えることです。そして、世の中を変えるために必要なことは、人の心が国家を創る以上、人びとの意識を変えることです。もう一つは、課題を解決する仕組みを創つて広めることです。

2016年は、これらを青年会議所の運動と定義づけました。そして、後者が今後の青年会議所の運動の柱となってくるはずです。なぜなら、人びとの意識を変えることは容易ではないからです。人びとの知識と意識は、地道な教育と強烈な原体験によつてしか育まれないからです。そして、その意識を行動へとつなげるのは、その出来事が生活に関わる当事者のみです。

だからこそ、人びとの心へのアプローチとは別に、課題解決の成功事例を創り、それをロールモデルとして広げていくことが、世の中を変えていくうえで最も有効な方法であるはずです。

「この国のかたち」や「まちのかたち」を論じることは重要です。しかし、より大切なことは、ビジョンを成すために個別の課題に対して、志ともいべき政策を立て、そこにあらゆる団体との協働を起こして課題を解決していくことなのです。

自ら独立して生計を立てながら、さらに公に貢献しようとする、最強のプロボノ集団である青年会議所こそが、新たな時代を切り拓いていくと確信しております。そして、大阪青年会議所には、常に運動を進化させることに挑戦し、先頭に立って走り続けてほしいと願います。



副理事長

岡部 倫典

Michinori Okabe

本年度、誠心響き合う共創都市大阪の実現に向けて、会員開発委員会及び子どもの未来共創室の担当副理事長を仰せつかりました。会員開発委員会では、しなやかな誠心で都市を力強く牽引していく青年を溢れるために、会員拡充を行い、290名の新たな仲間を迎えることができ、1100名を超えるメンバーで運動を発信することができました。また、指導・育成に関しては、まちを力強く牽引していくリーダーの育成に取り組んでまいりました。次年度以降も、私たちの活動の趣旨に賛同する仲間を拡げていき、まちに対して積極的な変革を創造できる組織・人づくりに力を尽くしていくかなければなりません。

子どもの未来共創室では、誠心を携え共創の礎を築いていく有益な関係を生み出していくために、それぞれの主体者が知恵と能力を結集し、世代を越えて豊かな次代を創り出す環境を構築してきました。まずは、同世代の子どもを一堂に会して、まちの資産や歴史をもとに触れ合う機会を通して、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成する環境を構築することで、夢の実現に向けて

チャレンジする活力みなぎる子どもを育成することが出来ました。そして、住吉区の地域の団体との連携、大阪市内の小学校での職業を生かした講師派遣を行い、地域の未来に貢献する志を携え、立場や世代を越え有益なつながりを築いていく人びとを創出することが出来、受け継がれてきた地域の資産から生まれてきたつながりを再認識しました。また、大阪市内の小学校と連携し、日本の国技ともいべき相撲を通して、切磋琢磨することにより、感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢らせ、希望溢れる未来に向けて歩み続けていく意欲を湧き立たせることが出来ました。

多くの方々の支援ご協力により、まちは個と個が重なり合い地域全体で支え合っているからこそ存在していることを実感した一年であり、そして、関係各位に心より感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。



副理事長

竹田 哲之助

Tetsunosuke Takeda

本年は、誠心響き合う共創都市大阪の実現のために、大阪の未来共創室と世界の未来共創室を副理事長として担当させて頂き、ローカルとグローバルの両方の視点より運動を構築し展開してきました。

大阪の未来共創室では、昨年のいわゆる「大阪都構想」の是非を問う住民投票により機運が高まる中、「未来を拓くつながりを、この大阪に！」をテーマに掲げ運動を展開してきました。大阪の未来選択委員会では、18歳以上に選挙権年齢が引き下げられることを受け、若年層に対して ULTRA VOTE PROJECT(若者の投票率大阪No.1)を開催し、政治参画を通じて自らの一歩で都市の可能性を切り拓く気概を高めることができました。また、このプロジェクトは東名阪が中心となり日本JCの事業として全国統一で展開されることとなりました。大阪の誠心創造委員会では、日本JCが推進する VSOP 運動と連動し、M-1 ボランティアを3ヶ月間にわたり実施しました。モデル事業として「270万人総美化計画」を行政・企業・団体・市民が協働したことで私事を越えたつながりを生み出すことができました。

世界の未来共創室では、「誠心の連鎖が世界を変える！」をテーマに掲げ、国境を越えてしなやかな誠心の連鎖を世界広げるために室協働事業として World EXPO 2016 を開催させて頂きました。

次代の誠心育成委員会では、日本JCのUN SDGs（持続可能な開発目標）ゴール6の推進と連動し、「Wave of Happiness」をテーマに Peace Conference of Youth を開催させて頂きました。日本の学生同士のプログラムを開催した後に、海外の学生を迎えたことで、より質の高い議論が展開されました。世界の誠心循環委員会では、「独自性と多様性が織りなす新たな可能性が世界を変える！」をテーマに掲げ、TOYP（世界の傑出した若者たち）事業を開催しました。PCYで導き出されたプランとTOYPメンバーによる世界にイノベーションを起こしている先進事例を World EXPO 2016 で発信することで、心に眠る想いを響き合わせて世界の発展に貢献していく人びとを創出できました。

結びに、多くのご支援ご協力を賜りました関係各所の皆様に厚く御礼を申し上げます。



専務理事

折竹 一郎

Ichiro Oritake

2016年度の一般社団法人大阪青年会議所は、城阪理事長の力強いリーダーシップのもと、「誠心響き合う共創都市大阪の実現」をスローガンに掲げ、大阪のまちに運動を展開すると共に、16年ぶりに公益社団法人日本青年会議所の会頭として山本樹育君を輩出し、全国に日本青年会議所の運動を力強く推進することが出来ました。

本年は、設立より65年の節目を終え、70年に向け、先輩諸兄が長きにわたり築き上げられてこられた資産をより強固なものにすると同時に、さらなる大阪の発展のために、城阪理事長が掲げられる「誠心」を基軸に、市民と共に未来を創造する大阪をめざして、あらゆる価値の根源である1,100余名のメンバーとともに、私たち一人ひとりの運動が、まちの人々に共感をもって頂けるような運動を組織として展開出来るよう、専務理事として運営を担わせていただきました。また、関係各所との連携や日本青年会議所の運動推進に取り組むと共に、地域や国境を越えた友好関係の深化を図つて参りました。

財務面、運営面では、これまで築き上げられてきた組織を継承しつつ、事務局業務のシステム化に向けた基盤作りや事務局の体制強化、また、会員拡充においても全委員会が目標を達成したこと、事業規模と均整のとれた財政基盤を構築することができました。

年末には、青年経済人としての資質を問われる事象がありましたが、明るい豊かな社会の実現をめざす活動に誇りを抱き、今後も襟を正し公に尽くす組織であり続けてほしいという想いに加え、本年度、私たちが行った運動や活動を通じて育まれた想いが受け継がれ、2017年度以降も大阪のまちにより良い変化をもたらすことを祈念致しております。

結びに、2016年度の一般社団法人大阪青年会議所の活動に対して多大なるご理解とご支援を賜りました関係各位に心より感謝を申し上げますと共に、2017年度も本年度同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



監事

中島 丈裕

Tomohiro Nakajima

2016年度一般社団法人大阪青年会議所は、城阪理事長のもと1100余名のメンバーが一丸となり「誠心響き合う共創都市大阪の実現」をめざして参りました。自らと向き合い、万物に感謝し公に資するという、誠心こそがすべてにおいての根幹であると定め、人びとの心に眠る誠心を呼び覚まして響き合わせ、連帯感あふれる共創の中核となって活力みなぎる未来を後世に贈り継ぐべく運動を展開されました。監事として、展開された運動と実施された事業が、円滑かつ適正であり、より効果の高いものであるかを、また、組織運営が適正に行われているかを1年間確認して参りました。

まず、子どもの未来共創室では、親と子の共同作業の場を提供するだけでなく、共に子を育む大人同士の協力関係を構築し、子が他者を慮る心や豊かな感受性を育み、原体験を得る機会から共に未来を創り出す共創の礎を築くことができました。

そして、大阪の未来共創室では、課題先進都市として新たな課題解決モデルを模索し、市民、企業や行政、諸団体、すべてが立場や事情を超えて大阪のために取り組める仕組

みを構築しました。また、本年は公職選挙法改正による選挙権年齢の引き下げを受け、若い世代に対する事業も行い、未来を拓く意識を高めることができました。

そして、世界の未来共創室では、世界とのつながりを活かし、国際社会の流れを捉え、多様性を受け止めるだけでなく新たな可能性へと変化させ、世界に誇るべき精神性を国境を越え広く世界に発信することができました。

また、対内では、新入会員290名を迎え、過去にない会員拡大を成し遂げ、組織としての運動発信力を高めることができました。そして、従来の月例会だけでなくセミナーや会員間の交流事業を通じ、しなやかな組織を実現しました。さらに、山本特別顧問が公益社団法人日本青年会議所65代会頭となられた本年、メンバーは、JCI、日本JCをより一層身近に感じ、積極的に関わる機会を得ることができました。

結びに、これからも社会から必要とされ続ける組織として、先人達から脈々と受け継がれてきた尊い想いをしっかりと次代へと引き継ぎ、次の時代を見据えた運動を展開されまることをご祈念申し上げます。



監事

北畠 博之

Hiroyuki Kitahata



監事

小川 徹朗

Tetsuro Ogawa



2016年度 JCI大阪の活動

2016 JCI Osaka Activities

1月

January

6日 新年名刺交換会



帝国ホテル大阪



22～24日 京都会議



国立京都国際会館



カンテレ扇町スクエア

16日 月例会



帝国ホテル大阪

4月

April

2日 入会式



梅田スカイビルタワーウエストステラホール





池田不死王閣



大阪天満宮



2・3日 新人セミナー



勝尾寺

2016年度 JCI大阪の活動

24日 大阪府下29LOM一斉チラシ配布



梅田、心斎橋、難波、天王寺、天満周辺



2～5日 ASPAC 高雄大会

台湾 高雄市

11日 整肢学院児童レクリエーション



大阪整肢学院／大阪府立中津支援学校

12日 ULTRA VOTE PROJECT



あべのキューズモール



9日 近畿地区大会 茨木大会フォーラム



立命館大学いばらきキャンパス

5月

May

1日 わんぱく相撲 大阪市大会



エディオンアリーナOSAKA(大阪府立体育会館)



12日 M-1ボランティア大阪 第1回



市内各所～大阪城公園



18日 PCY2016 1stクール



大阪青年会議所事務局



10日 M-1ボランティア大阪 第2回



市内各所～大阪城公園

2016年度 JCI大阪の活動



6日 なにわ淀川花火大会

淀川河川敷



7日 なにわ淀川花火大会(M-1ボランティア大阪 第3回)

淀川河川敷



16・17日 サマーコンファレンス



パシフィコ横浜 国立大ホール



25・29～31日 キッズアドベンチャー2016



大阪市中央公会堂・築港海遊館西波止場・
津守小学校

3日 OB現役交歓会



リーガロイヤルホテル大阪



3日 World EXPO 2016



グランフロント大阪コンベンションセンター

22日 大阪ブロック大会 大東大会



大東市立総合文化センター サーティホール



6~9日 第65回 全国大会 広島大会



護国神社前広場(広島城)・広島国際会議場



30~11月4日 JCI世界会議ケベック大会



ヒルトンホテルケベック・
ケベックシティコンベンションセンター





15日 J-nation No family,No JC



堺・緑のミュージアムハーベストの丘



8日 会員大会・卒業式



リーガロイヤルホテル大阪



会員開発委員会 高橋委員会

基本方針

誠心を響かせ合い、未来を拓こう！

事業計画

私たちは、連綿と紡がれてきた公に資する精神を受け継ぎ、仲間と共に未来を創造する意欲に溢れ、身の回りで起こる様々な事象の本質を捉え、何事にも臆することなく率先して行動する気概を有し、しなやかな誠心で都市を力強く牽引していく青年を溢れさせます。

事業報告

1. 入会式・新人セミナーの企画と実施

事業の内容	入会式・新人セミナーと称して、大阪の都市への想いを認識し、仲間とともに未来を創る意欲を高める事業
実施日時	4月2日(土)～4月3日(日)
場所・会場	梅田スカイビル ステラホール・勝尾寺
参加人数報告	計画：290人 結果：278人
実施方法の工夫	大阪の都市で活躍する未来のリーダーを育成するために、大阪を代表する会場において、都市の歴史や文化と大阪JCの基礎知識を学ぶプログラムを実施致しました。また、二日間に及ぶプログラムで、メンバー同士のコミュニケーションを図ることで、より効果の高い事業を実施することが出来ました。
事業目的に達した点	セミナーを受講したメンバーが、大阪の都市への想いを発露すると共に、青年会議所活動への理解を示し、活発に活動をする人材となることが出来ました。
事業目的に達しなかった点	特になし



2. 資質向上・未来創造事業の企画と実施

事業の内容	新入会員が自ら企画・実施運営を行い、資質を向上させ、未来を創り出す意欲を高める事業
実施日時	7月29日(金)～7月31日(日)
場所・会場	津守小学校・その他会場
参加人数報告	計画：278人 結果：207人
実施方法の工夫	リーダーとしての資質を向上するために、他委員会が創る事業との共創を行うことで、事業構築の全体的な流れを学ぶプログラムを実施致しました。
事業目的に達した点	自ら企画したプログラムと他委員会との連携を図り、事業全体を把握する視野を養い、事業構築の基礎を学ぶことが出来ました。
事業目的に達しなかった点	当日の気候・天候によるプログラム変更に伴い、自らが企画したプログラムの全てを行うことが出来ず、一部のメンバーに対しては、十分な育成が出来ませんでした。

3. なにわ淀川花火大会運営への協力

事業の内容	他団体や市民と協働し、都市の課題に対する想像力を養う事業
実施日時	8月6日(土)～8月7日(日)
場所・会場	淀川堤防一帯・プラザオーサカ
参加人数報告	計画：278人
実施方法の工夫	リーダーとして大阪の都市に対する想像力を養うために、他団体が行う事業への協力をを行い、地域の都市創りの基礎知識を学ぶプログラムを実施致しました。また、市民を募り、共に事業を行うことで、自らが都市創りの起点となる自覚を芽生えさせることができました。
事業目的に達した点	地域にある団体や地域企業、市民とともに事業を創り上げることで、都市の課題に対する想像力を養うことが出来ました。
事業目的に達しなかった点	共同企画において、市民の参加人数が目標としていた人数に達しなかったことで、市民とともに共創を行い、都市の課題に対する想像力が充分に育成出来ませんでした。





スタッフ

幹事	副委員長	委員	大幡 武司	北川 恭介	三栄 宏章	田口 善隆	速水 悠輔	村田 陽一	山本 宣仁
上田 泰志	安里 信友	阿部 桂子	大藪 賢志	北野 紀衡	白石 将太郎	竹越 徹	平安 宏充	森田 優一	山本 真理子
落合 裕一	金澤 学	伊藤 淳	岡田 望	木戸地 陽平	菅原 知	田中 良明	細尾 慶太郎	保井 美紀	横山 大典
齊藤 寛樹	古賀 大介	今津 康夫	岡本 英俊	高知 誠	杉浦 健文	辻野 晃弘	増本 知之	矢吹 保博	吉田 貴俊
山本 了輔	竹中 秀夫	今福 聰一	梶田 晋一郎	小島 雅士	瀬川 岳夫	長野 裕樹	松原 誠道	山崎 朋子	吉本 千春
矢本 浩教	中川 雅照	岩芝 公治	樺畠 貴典	阪野 紘理	高橋 華奈子	西出 誉	光本 健吾	山田 秀明	四十宮 麻美
		植松 大介	川崎 正嗣	佐飛 真梨	宝本 美穂	橋本 和哉	宮沢 孝児	山野 謙介	和田 諭子

私たち、会員開発委員会高橋委員会では、連綿と紡がれてきた公に資する精神を受け継ぎ、仲間と共に未来を創造する意欲に溢れ、身の回りで起こる様々な事象の本質を捉え、何事にも臆することなく率先して行動する気概を有し、しなやかな誠心で都市を力強く牽引していく青年を溢れさせる活動を行って参りました。

そのために、入会された新入会員に、先ずは都市の文化や経済を自主独立の精神で発展させてきた先人の想いと過去から連綿と受け継がれてきた資産について学んでもらったことで、脈々と継承されてきたより良い都市を創り出す心意気が自身にも内在していることに気づいてもらいました。そして、公に貢献する青年として、自らがもつ経験と知識を基に都市の未来の姿について妥協することなく語り合うことで、仲間と共に理想の都市を創り上げる可能性となる意欲を高めてもらいます。また、地域の町興しを行っている他団体との共創を行い、大阪の都市の課題を一つひとつ解決していくことで、人びとの何気ない行動が引き起こしている問題を本質から解決していく想像力を高めてもらいました。さらに、斬新なアイデアから生み出される解決策を創り出していくことで、自らの生活に影響を及ぼす可能性が有る課題に当事者として様々な角度から解決に取り組んでいく行動力を育んでもらいました。そして、同じ目標に向けて歩んできた仲間との活動を通じて得た気づきや見識を余すことなく活かせたことで、変化の機運が高まる都市の未来を拓いていくしなやかな誠心をもったリーダーを溢れさせました。

最後になりますが、新入会員の指導育成に多大なるご協力をいただきましたこと、本当にありがとうございました。

Hidenori
Takahashi



委員長
高橋 秀智

会員開発委員会

藤本委員会

基本方針

活力みなぎる未来を共に創り出す
中核的役割を担う青年を溢れさせます。

事業計画

私たちは、自らの心に眠る都市に対する想いを認識し、公に対する意識を共に高め合う関係性を構築し、自身を取り巻く多様性を寛大に受け止め、都市の課題に果敢に挑戦する気概に満ち溢れ、活力みなぎる未来を共に創り出す中核的役割を担う青年を溢れさせます。

事業報告

1. 新入会員拡充

事業の内容	新入会員拡充
実施日時	1月～3月
場所・会場	各実施会場
参加人数報告	計画：266人 結果：290人
実施方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■事業説明会・異業種交流会・お茶会に一人でも多くの方が参加できるように、日時場所を工夫致しました。 ■Facebookなど、新たな広報ツールを使い、幅広く募集を行いました。
事業目的に達した点	4月入会で266人の目標に対し、290人の新入会員を拡充することができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

2. 整肢学院児童レクリエーションの企画と実施

事業の内容	整肢学院児童レクリエーションの企画と実施
実施日時	6月11日(土)
場所・会場	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大阪整肢学院・大阪府立中津支援学校
参加人数報告	<p>計画：■対内 会員開発委員会旧人：95人／会員開発委員会新人：205人／役員：4人 小計：304人</p> <p>■対外 児童：91人／職員：60人 小計：151人</p> <p>■合計：455人</p> <p>結果：■対内 会員開発委員会旧人：総数141人 予定人数95人 実績人数89人 会員開発委員会新人：総数290人 予定人数205人 実績人数209人 役員：総数16人 予定人数4人 実績人数4人／小計：総数447人 予定人数304人 実績人数302人</p> <p>■対外 児童：予定人数93人 実績人数90人／職員：予定人数60人 実績人数63人／小計：予定人数153人 実績人数153人</p>
実施方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■事業全体のテーマを『未来に向かって！響き合おう！』と定めることで事業の一貫性と、事業の方向性を理解しやすいよう工夫します。 ■車椅子ダンスチーム『ジェネシス』に事業開催前に協力してもらい、車椅子でのダンスの安全性、実習の指導をメンバーが受け、事業当日も車椅子の児童も安全に楽しめるよう参加者全員が一体となる場を設けました。
事業目的に達した点	初回の新人企画会議にて、小委員会ごとのペルソナストーリーの作成など、議案の進め方や、青年会議所のルールについて学んでいただけ、2回目以降は、整肢学院事業のすべての企画を新人メンバーが中心となって進めていきましたことで、公に対する意識を共に高め合う関係性を構築できたと考えます。
事業目的に達しなかった点	特になし



3. 新入会員の指導育成

事業の内容	課題解決モデル発信・実践事業
実施日時	【課題解決モデル発信事業】7月7日(木)～11月25日(金) 【課題解決モデル実践事業】12月1日(木)
場所・会場	【課題解決モデル発信事業】大阪青年会議所事務局 【課題解決モデル実践事業】大阪市北区区民センター
参加人数報告	計画：課題解決モデル発信事業 (対内)会員開発委員会メンバー 221人 結果：課題解決モデル発信事業 (対内)会員開発委員会メンバー 221人 ※課題解決モデル実践事業は中止となりました。
実施方法の工夫	来場者に対し、新入会員とともに都市の課題解決について、考えてもらう機会とし、また大阪青年会議所の魅力について気づいていただく工夫を考えていました。
事業目的に達した点	課題解決モデル発信・実践事業を通じて、都市を構成している当事者として、守るべきものを大切にしながら何事にも変化を恐れず理想の都市を主体的に創り出す責任感を高めました。
事業目的に達しなかった点	課題解決モデル実践事業については、事業中止となり事業目的を途中までしか検証することができませんでした。

4. 新入会員の指導育成

事業の内容	集大成事業の企画と実施
実施日時	12月18日(日)
場所・会場	宴会天国味園
参加人数報告	計画：会員開発委員会メンバー 302人 結果：会員開発委員会メンバー 302人
実施方法の工夫	これまで新人メンバーが活動してきた集大成として、テーマを両委員会共通のテーマである『誠心響かせ合い、未来を拓こう！』とし、1年間の集大成にふさわしいプログラムといたしました。
事業目的に達した点	事業を通じて、新人メンバーに活力みなぎる未来を共に創り出す中核的役割を担う青年となっていただきました。
事業目的に達しなかった点	すべてのメンバーの参加を目指していましたが、一部のメンバーが出席することができませんでした。

私たち会員開発委員会藤本委員会は、自らの心に眠る都市に対する想いを認識し、公に対する意識を共に高め合う関係性を構築し、自身を取り巻く多様性を寛大に受け止め、都市の課題に果敢に挑戦する気概に満ち溢れ、活力みなぎる未来を共に創り出す中核的役割を担う青年を溢れさせる活動をおこなって参りました。

そのために、まずは組織全体で掲げた262名を目標とした拡充を行い、結果290名の新入会員の入会が実現いたしました。そして、整肢学院児童レクリエーションの企画と実施では、新入会員が主体となり、新たな仲間たち同士で大阪青年会議所のルールを学びながら、目標に向かって行動することで、何事にも背景や立場の違う一人ひとりが持ち合わせている力を結集し立ち向かう必要性を感じてもらいました。さらに新人企画事業として、『課題解決モデル発信事業』をおこない、様々な都市の課題解決に対する取り組みについて議論を重ね、自らが持ち合わせている固定観念にとらわれることなく、互いの想いを尊重し合う意識を高めました。さらに、その課題解決モデルについて、都市に住み暮らす人びとに発信をしていく『課題解決モデル実践事業』をおこない、都市を構成している当事者として、守るべきものを大切にしながら何事にも変化を恐れず理想の都市を主体的に創り出す責任感を高めました。そして、1年間の締めくくりとして『集大成事業』をおこない、都市の未来をしなやかな誠心を基軸に拓いていく搖るぎない使命感を携えたリーダーを溢れさせました。

最後になりますが、拡充から新入会員の指導育成にいたるまで、大阪青年会議所あげてご協力いただきましたこと、本当にありがとうございました。

Kazumasa
Fujimoto



委員長
藤本 和将

スタッフ

幹事	副委員長	委員	植本 彰	木元 香織	坂井 政一	高野 雅史	玉井 幸介	濱永 健太	樹 和也
澤村 隆宏	石盛 輝行	浅海 聰	大田 章裕	小居 雅司	阪野 由一	高山 洋平	段 周精	濱村 充哉	宮崎 真典
高橋 究	梅田 祐介	池田 生大	大谷 賢二	合林 茜	四宮 圭	竹川 聰	當眞 嗣成	林 裕満	森下 真男
徳岡 大輔	岡口 忠嗣	石川 智也	奥本 和久	小森 省吾	芝伐 佑介	竹澤 哲平	中村 桂	東 和男	森永 雄介
森高 悠太	田淵 健哉	石丸 健	金本 裕己彥	佐伯 卓也	関谷 昌子	田重田 勝一郎	中村 周造	廣木 学	諸岡 憲悟
藪根 壮一	若松 耕三	磯貝 克樹	河原 由次	西光 靖喜	芹奈 廉明	田代 忍	中村 宜嗣	藤重 智明	
		一瀬 知史	木村 真規	斎藤 直敏	高瀬 隆之	田中 幸子	羽原 功峻	堀口 龍介	

Co-Creation of the Future for Children Group

子どもの未来共創室

Hiroaki
Yagi



室長 八木 弘晃

本年度は、未来の宝である子どもに対して事業を行う3委員会に携わらせていただきました。子どもの未来のために今できることは何なのかを考え続け、大変成長させてもらえる1年となりました。「活力みなぎる子どもを育もう!」を室テーマに掲げ、自分自身の活力をみなぎらせて邁進いたしました。未来の誠心発掘事業では違う価値観をもつ海外の子どもも含めた仲間とともに行動していく力を養う事業として「キッズアドベンチャー2016」を開催しました。社会の誠心継承事業では地域の大人が子どもに対し自らの経験を基に育てていく環境の重要さに気づき、行動してもらう運動を展開しました。子どもの誠心育成事業では例年開催している「わんぱく相撲大阪市長杯」において1,800名を超える子どもに相手を慮る気持ちを醸成してもらいました。3事業とも継承事業と言われる事業ではありましたが、例年以上に参加者と参画いただける方に恵まれ、大きな運動を展開できたと考えます。今の日本や大阪において創造性と感受性を育む機会が失われつつある中で、世代を超えて豊かな次代を創り出す環境を構築する運動を展開させていただきました。私のJC生活の中でもインパクトのある1年となり、2017年につながる経験をさせていただきました。子どもの未来共創室八木室長を始め3名の委員長、メンバーの皆様にはお世話になりました。また、子どもに対しての事業を構築していく中で地域の大人の方々には大変お世話になり、新たなつながりを生み出すことができました。活力みなぎる子どもを育めたことで、誠心響き合う共創都市大阪の実現に一歩でも貢献できたと考えます。1年間本当にありがとうございました。

親が子どもの将来を案じ成績や成果を過度に求めるあまり、子どもが自ら挑戦し、豊かな創造性や感受性を育む機会を失いつつあります。本年度、子どもの未来共創室では、未来を担う子どもと共に夢を想い描き、新しい価値を生み出し、世代を超えて豊かな次代を創り出す環境が必要だと考えました。

そのために、未来を創り出す子どもと真摯に向き合い、自らを取り巻くあらゆるものに感謝の念を持ち、様々な背景をもつ人びとの価値観を受け止め、何事にも恐れることなく積極果敢に取り組み、誠心を携え共創の礎を築いていく有益な関係を生み出すことを目的に様々な運動を展開して参りました。

未来の誠心発掘委員会では、子どもを対象に、「キッズアドベンチャー2016」を開催いたしました。小学4年生から6年生の日本の子ども120名と海外の子ども（カンボジア、タイ、バンコク、台北、インドネシア）39名が16チームに分かれて大阪市内の各チェックポイントをクリアしていき、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成することができました。

社会の誠心継承委員会では、大人を対象に、社会人講師事業と社会の誠心継承プログラム事業を開催いたしました。社会人講師事業では大阪市内の小学校にて出前事業を開催し子どもに地域で活躍する大人の仕事に触れる機会を提供し、社会の誠心継承プログラム事業では地域の新たな取り組みを大人が企画運営することで、立場や世代を越え有益なつながりを築いていく人びとを創出することができました。

子どもの誠心育成委員会では、子どもを対象に、わんぱく相撲大会を開催いたしました。本年度で第35回を数え、大阪市教育委員会、大阪市相撲連盟をはじめ各種団体の皆様、ボランティアの皆様にご協力を頂きました。今回は、立命館大学の女子相撲の方々をゲストに迎え、1,852名の子どもに自由な発想をもとに大きな夢を想い描き、感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢れさせることができました。

本年度、子どもの未来共創室では、「活力みなぎる子どもを育もう!」をテーマに掲げ様々な事業を行ない、各委員会が力を合わせることで、誠心響き合う共創都市大阪の実現ができました。一年間ありがとうございました。

Sei
Morinishi



副室長 森西 聖

所属委員会

未来の誠心発掘委員会
社会の誠心継承委員会
子どもの誠心育成委員会

室テーマ

活力みなぎる子どもを育もう!

未来の誠心発掘委員会

基本方針

未来を拓く共創の礎となる子どもを育成していきます。

事業計画

新たなつながりから生まれる可能性に関心を抱き、同じ時代を歩む仲間と支え合う関係を築き、自らの価値観にとらわれず多様性を受け止める素直な心をもち、目標に向か挑戦していく行動力を携え、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成していきます。

事業報告

1. 未来の誠心発掘委員会の企画と実施

事業の内容	「キッズアドベンチャー 2016」と称して大阪の小学校高学年を対象に未来を拓く共創の礎となる子どもを育成する事業
実施日時	7月29日(金)～7月31日(日)
場所・会場	旧津守小学校他
参加人数報告	計画：小学校4年～6年(大阪の子ども120人、海外の子ども60人)180人 結果：(大阪の子ども120人、海外の子ども39人)159人
実施方法の工夫	■子ども達に忘れられない夏休みとしてもらうために、現在休校となっている小学校を宿泊先に選定し、日常にはない体験をしました。 ■一部、会員開発委員会との共同にて事業構築しました。
事業目的に達した点	一人では乗り越えられないことも励まし助け合いながら挑戦していくことで、仲間を慮る心や豊かな感受性を携え、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成することが出来ました。
事業目的に達しなかった点	シミュレーション不足により進行に時間がかかってしまいました。





スタッフ

幹事	副委員長	委員	池田 泰典	上原 大助	小林 裕典	品川 佳之	田中 威之	布川 孝志朗	水本 智仁	山根 鉄平
池田 俊雄	宇都宮 和加人	青木 信成	伊藤 昌紘	牛渡 裕也	佐伯 太朗	新川 高広	津波 丈雄	藤井 準	南林 弘基	吉田 洋行
大西 翼	小原 伸一朗	青野 圭佑	今城 健一郎	江川 晶士	酒井 七郎	菅原 めぐみ	寺岡 竜太郎	藤田 大輔	宮尾 徹	吉村 大助
梶本 秀則	西岡 雅人	青山 友和	岩崎 和仁	大木原 正祥	坂口 浩聰	高橋 和哉	中村 誠広	藤田 温香	森山 光樹	
山本 遊	丸山 正人	赤井 一也	岩永 憲浩	奥村 若枝	笹田 真義	瀧澤 行基	蜷川 敦之	文岩 龍郎	薮本 良子	
横山 智子	三木 章広	芦田 陽祐	上野 晃一	小椋 雄司	宍戸 俊文	宅島 一嘉	林 弘治	古川 佳美	山根 勝己	



私たちは、誠心響き合う共創都市大阪の実現のために、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成する運動として、未来の誠心発掘事業（キッズアドベンチャー2016）を実施させていただきました。

子どもを取り巻く環境が変化する中、無邪気さや元気良さ、失敗を恐れず挑戦するといった、子どもが本来持っている心を発掘する必要があると考えました。

そのために、「仲間を思いやり未来を拓こう」をテーマに、小学校4年生～6年生の日本子ども120名を対象に海外の子ども39名にも参加いただき、総勢159名が16チームに分かれ、親元を離れ2泊3日間のプログラムに挑戦してもらいました。つい昨日まで面識のない子どもたちが真夏の大変暑い中、寝食を共にしながら様々な体験や試練に挑戦していく過程から、互いを認め合い、心を通わせ、助け合う関係性を構築してくれました。一人では辛いことも仲間と一緒に協力して取り組むことで仲間を思いやり、これから共に未来を拓く子どもを育成することが出来ました。また保護者からは子どもたちが自信に満ちた顔になり逞しく成長して帰って来たとの感想をいただき、子どもが本来持っている心を発掘することが出来ました。

私たちは、新たなつながりから生まれる可能性に関心を抱き、同じ時代を歩む仲間と支え合う関係を築き、自らの価値観にとらわれず多様性を受け止める素直な心をもち、目標に向かって挑戦していく行動力を携え、未来を拓く共創の礎となる子どもを育成し、誠心響き合う共創都市大阪を実現させました。

最後になりますが、ご協力いただきました大阪市教育委員会様をはじめとする行政の皆様、学校関係者の皆様、市民・各企業・団体の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

Ichiro
Yatani



委員長
矢谷 一朗

社会の誠心継承委員会

基本方針

立場や世代を越え有益なつながりを築いていく人びとを創出していくきます。

事業計画

私たちは、共に未来を創り出す子どもと真摯に向き合い、次代の担い手を地域全体で育む責任を自覚し、理想の都市創りの基軸となる新しい可能性を見出し、地域の未来に貢献する志を携え、立場や世代を越え有益なつながりを築いていく人びとを創出していくきます。

事業報告

1. 社会人講師事業

事業の内容	社会人講師と称して、地域の大人を小学校に派遣し、授業を通じて子どもと向き合うことで地域全体で子どもを育む責任感ある大人を創出する事業
実施日時	4月より随時開催
場所・会場	大阪市内の小学校
参加人数報告	計画：今年度新規登録講師：70人 結果：今年度新規登録講師：72人
実施方法の工夫	講師育成マニュアルを用いて歴代社会人講師による講習を実施し、地域の大人が誰でも講師を行なうことができるよう講師の育成に努めました。また、新規講師を広く地域から募ることでより多くの大人の方に事業の必要性を発信できました。
事業目的に達した点	オリエンテーションによる講師の育成と小学校における出前授業の実施を通じて、次代の担い手を地域全体で育む責任感あふれる人びとを創出することが出来ました。
事業目的に達しなかった点	地域全体で子どもを育む大人を一人でも多く創出することを目的としていましたが、派遣できなかつた一部の講師については充分にその意識を高めることができませんでした。





2. 社会の誠心継承プログラム

事業の内容	住吉地域の新たな取組みとして子どもを対象に実施した住吉サマーフェスティバルの企画・運営に社会人講師が携わることで、地域の未来のために世代や立場を越えたつながりを築くことの重要性を感じてもらう事業です。
実施日時	7月18日(月)
場所・会場	住吉地域
参加人数報告	計画：今年度新規登録講師：70人 結果：今年度新規登録講師：45人
実施方法の工夫	住吉サマーフェスティバル実行委員会のメンバーとして地域の方々と共に企画・運営に携わることで、世代や立場を越えたつながりを築いていく過程を体験していただきました。また、この経験をそれぞれの地域で活かすためのプログラムを実施することで効果的に意識を高めることができました。
事業目的に達した点	住吉サマーフェスティバルの経験をもとに、講師のそれぞれの地域の新たな可能性を見出し、地域の未来に貢献するために立場や世代を越えたつながりの起点となる人びとを創出することができました。
事業目的に達しなかった点	特になし



私たちは、誠心響き合う共創都市大阪の実現に向け、子どもを取り巻く環境が大きく変わりつつある今、子どもたちの未来のために地域全体で子どもを育む大人が必要であると考え、社会の誠心継承事業（社会人講師事業・社会の誠心継承プログラム）を実施してまいりました。

大阪青年会議所の社会人講師事業として10年目を迎える本年は、子どもを育む大人同士のつながりの再構築に着目し、講師として子どもたちと向き合うことで、従来のキャリア教育のみならず、私たち大人が世代を越えて受け継いできた大切なことを子どもたちに伝えることに努めてまいりました。その結果、地域の大人が子どもの育成に関わることの重要性を再認識していただくことができ、地域全体で子どもを育む意識を高めることができました。

また、今年度の特色として、講師を地域から広く募り、講師の育成にも注力いたしました。9年間蓄積してきたノウハウと歴代の講師による講習を実施した結果、新たに70名を超える講師が誕生いたしました。

さらに、住吉地域における新たな取組みとして実施された「住吉サマーフェスティバル」の企画・運営に携わっていただくことで、地域の未来に貢献する意識が高まり、世代や立場を越えた新たなつながりの起点となる大人として行動を起こしていただけたことは、継続的に実施してきた本事業において大きな進展であると確信しております。

最後になりますが、1年間を通じてご協力賜りました、大阪市、学校、各種団体、企業、地域の皆さんに心より感謝御礼申し上げます。

私たちはこれからも未来ある子どもたちのために様々な事業を展開してまいります。今後ともご協力賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

スタッフ

幹事	副委員長	委員	内田 昂	小倉 健宏	神谷 幸代実	阪口 小百合	竹内 一真	林本 大	松浦 瑞江
明田 佳樹	河合 栄佳	赤井 亮	江崎 辰典	小倉 英嗣	木下 隆英	坂本 裕喜	谷岡 遼	平塚 靖己	南本 庸介
幸池 平	田中 大介	浅岡 保裕	大津 謙佑	越智 敬一	日下 亮太	昭野 元宏	辻本 一磨	平山 素	山本 崇久
小嶋 康太	中尾 航志	荒川 めぐみ	岡本 真行	加藤 元之	楠 茂樹	鈴木 あかり	徳原 英真	堀 感治	吉村 久
阪田 浩司	松島 慎治	今村 昭悟	岡本 幸宏	金井 弘一朗	國武 浩紀	住江 悠	徳矢 卓洋	渥打 将史	和田 剛祉
細田 誠一	宮城 裕美	岩永 将至	小川 健一	金井 崇憲	後藤 敬介	高橋 友香	友綱 満	眞下 幹弘	和田 益明

Koji
Yamamoto



委員長
山本 浩二

子どもの誠心育成委員会

基本方針

感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢れさせます。

事業計画

私たちは、自由な発想をもとに大きな夢を想い描き、人びととのつながりに支えられていることを認識し、互いの誠心を響き合わせる関係を構築し、自らが掲げる目標の達成に挑戦し続ける気概を携え、感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢れさせます。

事業報告

1. 子どもの誠心育成事業

事業の内容	小学生、未就学児による相撲の取り組みを通じて自らが掲げる目標の達成に挑戦し続ける気概を携えた感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢れさせる事業
実施日時	5月1日(日)
場所・会場	大阪府立体育会館
参加人数報告	計画：小学生：1,500人／未就学児：500人 結果：小学生：1,473人／未就学児：379人
実施方法の工夫	小学校への告知を早い段階から行い、朝礼で告知を行うなど新しい方法を用いることで参加者の増加につなげました。また当日は立命館大学より世界チャンピオンを招待し来場者に試技を行っていただきました。
事業目的に達した点	勝つことの喜び、負けることの悔しさを体験することにより勝者を称え、敗者への思いやりを育んでもらいました。その結果、対戦した相手に思いやりを持つことができた小学生は1,473名中80%、未就学児は379名中83%いました。
事業目的に達しなかった点	スライドショーの撮影・放映と開会式が時間的・内容的に参加者が限られてしまい、参加できなかった子ども達の意識を高めることができませんでした。







スタッフ

幹事	副委員長	委員	岩瀬 史明	櫻井 陽子	武田 智宏	永本 俊秀	藤尾 雄一	宮秋 賢三	淀 洋和
石坂 省悟	猪俣 洋聖	英賀 雄介	大西 浩平	下田 大輔	土井 龍輔	西井 重超	藤原 隆博	三好 雅彦	依藤 哲也
田中 章弘	大村 雅祥	渥美 宙	川崎 雄也	隅田 唯	徳田 正和	西尾 淳	古山 久幸	森川 祐樹	
土岐 勝	樋元 雄生	石元 篤	川畑 太介	世古口 佳典	中島 聰智	野田 良徳	前田 貴弘	山内 宰祐	
徳田 聖也	西口 司朗	市山 慎一	久保 雅史	瀧本 豊	中野 繁明	長谷川 浩久	横尾 真法	山崎 宏詩	
藤浪 寛	山崎 克将	伊藤 健太郎	坂口 央	竹下 達也	中畠 和貴	東 壮一	丸富 成日	山本 守	

私たちは、誠心響き合う共創都市大阪の実現に向け、子どもを取り巻く環境が大きく変わりつつある今、答えを与えられていない課題に挑戦する気概が必要であると考え、子どもの誠心育成事業（大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会）を実施致しました。

本年度のわんぱく相撲には例年を大きく上回る1,852人の子ども達に参加いただきました。大阪中の小学校を一校一校地道に回り、子どもたちが挑戦する機会の大切さを訴え続けたことで多くの人々を巻き込んだ運動を展開することができました。事業当日は同年代の大坂中の子どもたちが一堂に会し、盛大に相撲の取り組みが行われました。自ら試行錯誤しながら相撲に真剣に取り組み、勝負が終われば相手を思いやる。土俵の外ではスライドショーで夢を語り、仲間の応援をすることで互いを高めあう。そんな子ども達をたくさん目にすることができます。

私たちは、自由な発想をもとに大きな夢を想い描き、人びとのつながりに支えられていることを認識し、互いの誠心を響き合わせる関係を構築し、自らが掲げる目標の達成に挑戦し続ける気概を携え、感受性と創造性の豊かな共創の礎となる子どもを溢れさせ、誠心響き合う共創都市大阪を実現できました。

最後になりますが、1年間を通じてご協力賜りました、大阪市、学校、各種団体、企業、地域の皆様に心より感謝御礼申し上げます。

私たちはこれからも未来ある子どもたちのために様々な事業を展開してまいります。今後ともご協力賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

Seiji
Okuno



委員長
奥野 誠司

Co-Creation of the Future of Osaka Group

大阪の未来共創室

Naoki
Kono



室長

河野 尚樹

2016年度は常任理事大阪の未来共創室室長として、「未来を拓くつながりを、この大阪に！」をテーマとして掲げ、大阪の未来選択委員会・大阪の誠心創造委員会のメンバー全員と一丸となり、「誠心響き合う共創都市大阪の実現」を目指して1年間邁進してきました。

大阪の未来共創室では、都市の事象に対し自分事として向き合い、様々な立場を越えて異なる価値観を受け止め、一人ひとりが果たすべき役割を自覚し、未来を拓く活力となる新しい可能性を拓げ、新たな都市を創り出す私事を越えた共創を実現するつながりを築いていくことを目的として2つの委員会で運動を展開して参りました。

大阪の未来選択委員会では、ULTRA VOTE PROJECT (若者の投票率大阪No.1) を様々な学生・企業・団体と創り上げ、社会で起きている出来事に关心をもち、物事の本質を柔軟な発想力で捉え、都市を構成する当事者として未来を選択する責任を自覚し、自らの一歩で都市の可能性を拓く気概を携え、新たな活力で公に資する想いを響き合わせる人びとを創出して参りました。

大阪の誠心創造委員会では、私事を越えて大阪の未来を共創する人びとを増やすために、モデルプランとして行政・企業・団体の協力による一般市民を巻き込んだ270万人総美化計画を実施しました。また、モデルプラン参観者に自身ができるM-1プランを考案してもらい、様々な機関と協力し合いM-1プランを実現し公を支え合う想いを行動へと昇華させる人びとを増やして参りました。

大阪のこれから未来を拓くためには、様々な立場や世代を越えて新たな都市を創り出すつながりを創ることが大切であり、新たな活力で公に資する想いを響き合わせ、公を支えあう想いを行動へと移すことができれば大阪全体で未来を創り出すことができるのです。本年の私達の運動が誠心響き合う共創都市大阪の実現への一助となったと確信して一年間をまとめさせていただきます。ありがとうございました。

所属委員会

大阪の未来選択委員会
大阪の誠心創造委員会

室テーマ

未来を拓くつながりを、
この大阪に！

大阪の未来選択委員会

基本方針

新たな活力で公に資する想いを響き合わせる人びとを創出していくます。

事業計画

私たちは、社会で起きている出来事に関心をもち、物事の本質を柔軟な発想力で捉え、都市を構成する当事者として未来を選択する責任を自覚し、自らの一歩で都市の可能性を拓く気概を携え、新たな活力で公に資する想いを響き合わせる人びとを創出していくます。

事業報告

1. 大阪の未来選択事業の企画と実施

事業の内容	ULTRA VOTE PROJECTと称して、学生・企業・行政・団体などと協力したうえで18～19歳の若者を対象に新たな活力で公に資する想いを響き合わせる人びとを増やす事業
実施日時	6月12日(日)
場所・会場	あべのキューズモール
参加人数報告	計画：2,000人 結果：9,642人
実施方法の工夫	これまで政治や選挙に関心を有していないかった対象者にきっかけを作るため、同世代の有名人をPR大使に起用し、若者が興味を持つプログラムを取り入れた。加えて、若者が主体的に事業を創り上げることで自分たちが有する可能性に気付いてもらうため、企業・学校・行政からも協力を得たうえで事業を実施した。
事業目的に達した点	事業当日のアンケートにおいて、事業に参加したことで、選挙や政治に関する意識が変化したかとの質問に対し、70%以上の人人が「YES」と回答した。 また、各種SNSにおける閲覧数等においても目標の数値を以下のとおり大幅に超える結果となった。 ■ツイッター インプレッション数(リーチ数)：1,511,296／フォロワー数：347／プロフィールへのアクセス数：46,700 ■Facebook 閲覧数：161,421／いいね累計：637 ■AbemaTV FRESH!による当日LIVE中継 視聴者：31,004名
事業目的に達しなかった点	特になし







ファッショナブル
藤田ニコル氏



シンガーソングライター
井上苑子氏



KCF モデル
八伏紗世氏



大阪モード学園
斎藤実氏



NPO 法人 YouthCreate 代表
原田謙介



こいや祭り実行委員会
中嶋勇人氏



HAL 大阪
堀川晃弘氏

スタッフ

幹事	副委員長	委員	尾上 普美	川上 確	寄本 将光	田原 洋司	成田 豊	前川 晃一	村川 貴史
音野 順宏	一花 裕一	秋田 俊幸	大道 誠	木下 孝祐	笹川 理	田村 俊浩	林 成勲	榎本 昭之助	森田 陽子
阪倉 篤史	狩野 雅彦	浅田 雄太	岡山 和弘	後藤 光代	佐藤 俊	辻 亮	福岡 寛樹	松村 太輔	柳 智也
下岡 佑一郎	金 思冽	池田 健志	小野田 仁	斎藤 亮太	更家 一徳	富坂 知	藤本 勝仁	峰 伸史	山本 一樹
城間 辰裕	辻 秀明	石橋 卓典	柿本 陽子	阪野 瑞穂	鈴木 威信	中川 譲治	古庄 敏之	三宅 紗希子	山本 義継
武信 浩行	松下 兼久	内本 明伸	加藤 良子	佐川 宏治	多田 雄一	中谷 光一	堀越 博一	村岡 正規	渡辺 俊一

私たち大阪の未来選択委員会は、社会で起きている出来事に关心をもち、物事の本質を柔軟な発想力で捉え、都市を構成する当事者として未来を選択する責任を自覚し、自らの一步で都市の可能性を拓く気概を携え、新たな活力で公に資する想いを響き合わせる人びとを創出することを目的に活動してきました。

喫緊の課題を抱える大阪は、様々な事情や背景により理想的にことが進まず、人びとの多くは未来に対してただ不安を抱いているだけです。だからこそ、新たな活力で世代や立場を越えた未来を拓くつながりを大阪全体に拡げていくことが必要であると考え、「若者が未来を創る」をテーマに掲げて取組んできました。

18・19歳に選挙権が付与されて最初の参議院議員選挙が実施される歴史的チャンスが到来したことを受け、若者が協力して、政治や選挙について考える「ULTRA VOTE PROJECT」を企業・学校・行政の協力を得て開催しました。

まず、若者の共感を生み出すため同世代のPR大使を起用するとともに、新たな取組みとして各種SNSや若者が利用する新たなツールを活用して選挙や政治に関する様々な情報を継続的に発信しました。

そして、若者同士が未来について語り合うパネルディスカッション・選挙に関する基礎講座など各種コンテンツを実施したことで、多くのマスコミにとりあげられる結果となり、これまで、選挙や政治に関心のなかった層の若者の意識を変化させることができたと確信しております。

最後になりますが、事業に参加してくれた若者が、これからの大坂の未来を創る中心となつて更なる活躍をするとともに、選挙権年齢の引き下げが日本の未来を切り拓く大きな要因となることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

Kota
Uematsu



委員長
植松 康太

大阪の誠心創造委員会

基本方針

公を支え合う想いを行動へと昇華させる人びとを増やしていきます。

事業計画

私たちは、過去から連綿と受け継がれてきた精神性を認識し、人びとが抱えている事情を思いやり、私事を越え互いに力を合わせる必要性を理解し、都市が有している資産の新たな可能性を見出し、公を支え合う想いを行動へと昇華させる人びとを増やしていきます。

事業報告

1. 大阪の誠心創造事業の企画と実施

事業の内容	M-1ボランティア大阪と称して、行政・企業・団体などの大阪の主体者を対象とした私事を越えて大阪の未来を共創する人びとを増やす事業
実施日時	6月12日(日)、7月5日(火)、7月10日(日)、7月31日(日)、8月2日(火)、8月7日(日)
場所・会場	大阪市内各所
参加人数報告	計画：対外：1,235人 結果：対外：993人
実施方法の工夫	私事を越えて大阪の未来を共創する人びとを増やすために、モデルプランとして行政・企業・団体の協力による一般市民を巻き込んだ270万人総美化計画を実施しました。また、モデルプラン参観者に自身ができるM-1プランを考案してもらい、様々な機関と協力し合いM-1プランを実現しました。
事業目的に達した点	270万人総美化計画を体験して、私事を越えて大阪の未来を共創する意識を持った人が80%を越えました。また、M-1プラン提出数は当初の目標であった115件を上回り119件の提出がありました。さらに、M-1プラン実施数においても、当初の目標であった22件から大きく上回り31件を実施するに至りました。
事業目的に達しなかった点	特になし







スタッフ

幹事	副委員長	委員	大南 勝範	紀平 満	信田 光晴	谷 和紘	西川 武尊	古屋 栄二	山崎 大輔
川瀬 裕介	内田 洋介	赤坂 将太郎	岡部 芳明	黒松 宏吏	清水 亮佑	玉木 智哲	西原 宏樹	細川 直人	山田 英範
波多野 健太	奥田 勇	新井 庸能	押村 直志	後藤 孝周	下地 龍	津田 将吾	長谷川 栄雄	前田 泰宏	山本 昌史
檜山 智志	小田 研史	石川 奈々子	表 秀和	小林 泉	白井 輝良	恒元 直之	畠 伸太郎	松下 正平	
三好 健一	深井 光雄	井上 和樹	亀井 正智	齋藤 勝	新川 豊	津村 豊光	林田 岳広	松山 和徳	
和田 篤樹	森井 智士	上野 肇公	川間 亮佑	坂 幸樹	高橋 隆亮	寺前 雅文	畢 志鵬	丸山 浩介	
		太田 真矢	北野 雄一郎	佐々 一樹	田中 剛兵	中野 功夫	藤田 哲士	道田 喜一郎	

今年度、私たち大阪の誠心創造委員会は、過去から連綿と受け継がれてきた精神性を認識し、人びとが抱えている事情を思いやり、私事を越え互いに力を合わせる必要性を理解し、都市が有している資産の新たな可能性を見出し、公を支え合う想いを行動へと昇華させる人びとを増やすことを目的に活動してまいりました。

課題先進都市である大阪は、新たな都市の姿を創り出すステークホルダーのそれぞれの立場や事情により理想的にことが進まず、都市の未来は決して安穏としたものではありません。そこで、私事を越えて大阪全体で公を支え合う未来を共創するつながりを築くことが必要であると考えました。

そのため、それぞれの事情や立場を越え、互いに協力し合いながら、自身の職業や得意なことを活かして公に貢献する「M-1ボランティア大阪2016」を開催いたしました。まず、M-1ボランティアのモデルプランとして、行政・企業・団体の協力のみで270万人総美化計画を実施し、参加者である一般市民が私事を越えて大阪の未来を共創することを体感することで、自身の職業や得意なことを活かして公に貢献する意識を高めていただきました。その後、参加者に自身のM-1プランを考え、実施に向けて各種機関と調整いただき、モデルプランを越えて様々なM-1ボランティアを実施いたしました。その結果、私事を越えて大阪の未来を共創する人びとが増えたと確信しております。

最後になりますが、「M-1ボランティア大阪2016」にご賛同いただき、ご協力いただきました行政・企業・団体・市民の皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

Kaori Motooka



委員長
本岡 佳小里

Co-Creation of the Global Future Group

世界の未来共創室

Masatoshi
Yoshii



室長 吉井 雅俊

私たち世界の未来共創室では、誠心響きあう共創都市大阪の実現のため、「誠心の連鎖が世界を変える!」をテーマに掲げ、変化する国際社会の流れを俯瞰的に捉え、誇るべき精神性を揺るぎない基軸とし、目指すべき理想の姿を想い描き、異なる背景から生じる多様性を新たな可能性へと深化させ、国境を越えてしなやかな誠心の連鎖を拡げていく人びとを創出することを目的に運動を展開して参りました。世界を感じ取る一日を大阪に創り出すべく、World Expo 2016と題し、事業を開催いたしました。次代の誠心育成事業では、大阪と世界の学生が平和について議論する事業を行い、回数を重ねるごとに表情が変化し、平和について熱く語り合い、有効なアプローチを生み出していく中でお互いの多様性を認め合い、それぞれの心に眠る想いを結集し、次代を拓くチャレンジスピリットを高め合いました。集大成であるPEACE conferenceでは、約4,000の聴衆の前で、平和へ向けてのアクションプランを発表しました。彼らにとつて自らの志を高める機会になり得たと確信しております。また、世界の誠心循環事業では、人びとのより良い暮らしに想いを馳せ、創造的イノベーションを起こしてきた先駆者をこの大阪に招聘し、それぞれの活動について、皆様の前でプレゼンテーションを行っていただきました。また、松山大耕氏、ユーグレナの出雲社長、日本を代表するイノベーターとして堀江貴文氏をお招きし、ご講演頂きました。我々の独自の精神と、創造性を十分に感じ取っていただけたと確信しております。略儀ではございますが、本事業に、ご理解ご賛同いただきました皆様に改めて、御礼を申し上げます。

2016年度世界の未来共創室では、誠心響きあう共創都市大阪の実現のために、「誠心の連鎖が世界を変える!」をテーマに1年間邁進してきました。

私たち世界の未来共創室は、変化する国際社会の流れを俯瞰的に捉え、誇るべき精神性を揺るぎない基軸とし、目指すべき理想の姿を想い描き、異なる背景から生じる多様性を新たな可能性へと深化させ、国境を越えてしなやかな誠心の連鎖を拡げていく人びとを創出することを目的に運動を展開して参りました。

本年度は、大阪で国際について考える日をいたしまして、グランフロント地下にございますコンгрェコンベンションセンターにて約4,600名の皆様にお集まりいただき、World EXPO 2016を開催させていただきました。

次代の誠心育成委員会では、Peace Conference of Youthを実施させていただきました。「Wave of Happiness」をテーマに、安全な水へのアクセスという課題の解決策について日本の学生と世界中の学生が数日間に渡り議論をぶつけ合い、並々ならぬ努力の末に作成した解決案をWorld EXPO 2016の中で発表いたしました。また、国際的な課題解決に取り組んでいる46団体様にブースを出展いただき、活動紹介や団体PRを通して国際に目を向ける機会とさせていただきました。

世界の誠心循環委員会では、TOYP 2016を実施させていただきました。「独自性と多様性が織りなす新たな可能性が世界を変える!」をテーマに掲げ、世界の傑出した若者たち5名をお招きし、World EXPO 2016において、イノベーションを起こす先進的な取り組みについてプレゼンテーションしていただきました。また、日本人の誇るべき精神性と国際社会で果たすべき役割について、松山大耕(妙心寺退蔵院副住職)様、出雲充(株式会社ユーグレナ代表取締役)様、堀江貴文(元株式会社ライブドア代表取締役)様にご講演いただきました。

世界の未来共創室は、世界との距離が近づき、国際社会に無関心ではいられなくなっている現在において、強みと多様性を創造力へと昇華させ、心に眠る想いを響き合わせて世界の発展に貢献していく人びとを創出し、誠心響きあう共創都市大阪の実現への一助となったと確信しております。1年間、誠にありがとうございました。

Naoya
Hirai



副室長 平井 直哉

所属委員会

次代の誠心育成委員会
世界の誠心循環委員会

室テーマ

誠心の連鎖が
世界を変える!

次代の誠心育成委員会

基本方針

人びとの心を響き合わせる連鎖の起点となる人財を創出していくます。

事業計画

私たちは、日常生活の中にある国際社会とのつながりを認識し、連綿と紡がれた公に尽くす精神に誇りを抱き、世界で起きている事象の本質を捉え、理想の未来を実現する新たな可能性を見出し、人びとの心を響き合わせる連鎖の起点となる人財を創出していくます。

事業報告

1. 次代の誠心育成事業の企画と実施

事業の内容	ワン・ワールド・フェスティバルブース出展
実施日時	2月6日(土)～2月7日(日)
場所・会場	関テレ扇町スクエア
参加人数報告	計画：一般来場者：30,000人／JCメンバー：58人 結果：一般来場者：24,000人／JCメンバー：85人
実施方法の工夫	大阪青年会議所が世界に向けて発信している事業に触れて頂き、大阪青年会議所の活動に深い理解と共感を得て頂きました。
事業目的に達した点	ブース出展 PCY事業並びにTOYP事業の実績をブースにてパネル展示し、大阪青年会議所が実施する世界に向けた活動を広く知つてもらいました。 ワークショップ 世界で発生する食糧問題を楽しみながら理解できる食育ゲームを体験してもらうことで、自らの生活が国際社会とのつながりがあることを理解して頂きました。
事業目的に達しなかった点	特になし



2. 次代の誠心育成事業の企画と実施

事業の内容	PCY1st
実施日時	6月18日(土)、7月2日(土)～7月3日(日)
場所・会場	【6月18日】大阪青年会議所事務局、【7月2日～3日】ホテルコスモスクエア国際交流センター
参加人数報告	計画：国内学生：18人／留学生：6人 結果：国内学生：18人／留学生：6人
実施方法の工夫	【事業テーマ】Wave of Happiness 水に関する問題に絞った議題に取り組み、海外学生が合流するPCY本体事業において、ハイレベルな議論を展開し実現可能性の高いアクションプランを創造することを目指すことを目標とし、PCY1st クールにおいて、日本人学生と留学生によるプラン作成をしました。
事業目的に達した点	事前課題によるリサーチを実施する参加学生の意識を高める導入を実施したこと、学生同士で活発なディスカッションができ、アクションプランを作成することができました。この事業を通じて学生は日常生活にある国際社会とのつながりを認識し、先駆者から直接の話を聞くことで連綿と紡がれている公につく誠心があることを意識し、ディスカッションにより世界で起きる事象の本質を捉えることができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

3. 次代の誠心育成事業の企画と実施

事業の内容	PCY1st 本体事業
実施日時	【PCY事業】8月30日(火)～9月3日(土) 【World EXPO 2016】9月3日(土)
場所・会場	【PCY事業】ホテルコスモスクエア国際交流センター 【World EXPO 2016】グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター
参加人数報告	計画：【PCY事業】PCY参加学生：36人【World EXPO 2016】大阪のまちの人びと：1,100人 結果：【PCY事業】PCY参加学生：33人【World EXPO 2016】大阪のまちの人びと：4,312人
実施方法の工夫	■ PCY1stで作成した3つのアクションプランと海外から合流した12名の学生が調査した事前課題を元に多様性を融合した新たな価値を創造するアクションプランを作成しました。 ■ World EXPO 2016において学生たちが作成したアクションプランを発表し、更に政府や企業に対し水問題解決へ向けての提言を発表しました。
事業目的に達した点	■ 学生がフィールドワークやグループワーク等のプログラムを通じて、多様な価値観を受け入れながら、仲間と共に課題の解決に向かって進むことにより、多様性の融合が新たな可能性を生み出す機会となり得ることを理解して頂くことができました。 ■ World EXPO 2016にて自らで創り上げたアクションプランを広める経験をして頂いたことで、人びとの心を響き合わせる連鎖の起点となる人財を創出することが出来ました。
事業目的に達しなかった点	特になし





私達、次代の誠心育成委員会は誠心響き合う共創都市大阪の実現に向け、人びとの心を響き合わせる連鎖の起点となる人財を創出する運動を実施してまいりました。Wave of Happiness～命の水をつなげよう～をテーマに、SDGsにおいて世界平和を阻害する要因として解決しなければならない問題である『水』をターゲットとし次代の誠心育成事業として“Peace Conference of Youth 世界学生平和会議”を実施致しました。

ワン・ワールド・フェスティバルにてブース出展を実施し、大阪青年会議所が世界に向け展開する事業をPRさせて頂いたことで、人びとに国際社会と自らの生活の見えない結びつきによって成り立っていることを理解して頂きました。

本年度のPCYはPCY1stから始まり本体事業そしてPCYメンバーの成果発表の場となるWorld EXPO 2016を実施致しました。3ヶ月の長期に渡り学生が世界平和を考える機会を提供したこと、ハイレベルなディスカッションが繰り広げられより実現可能なアクションプランを構築すると共に、さらに政府や企業、民間等の各レベルにおいて世界平和への協力体制を呼びかける提言を作成することができました。特にプレゼンテーションの締めくくりに学生が発言した、「幸せを願う気持ちから人々を救いたいと思うときに絶対に必要な事とは、行動を起こすこと」また次の人が動き出し、その影響が波紋のように広がった結果運動が世界中に広がれば世界平和を実現することにつながると信じています。」この言葉にはまさにWave of Happinessが学生に染み渡り、彼らが連鎖の起点となる人財になったことを確信しました。

最後になりましたが、この事業を実施していく上で多大なる協力を頂きました、教育機関・団体・企業・領事館・PCYフェロー・ファシリテーター・世界中のJCIチャプターの皆様に心からの感謝を申し上げます。

Masamori
Inoue



委員長
井上 幹盛

スタッフ

幹事	副委員長	委員	岩元 義宏	草分 陽一	田口 敦	鳥越 明子	比嘉 里衣子	松田 憲嗣	山内 昌裕
辻 光哉	秋本 賢	秋吉 忍	上西 孝法	崎 晴香	竹下 健吾	中村 圭佑	日野岡 信一朗	三品 龍介	山口 貴士
中川 隆資	小倉 康宏	石井 孝昌	岡 哲嗣	澤田 雄介	竹島 幸志	中村 光伸	福西 咲也子	水守 研二	山出 敬太郎
西澤 孝朗	田儀 利明	石原 義明	奥山 隆輔	三宮 規尊	田中 大輔	西田 伸祐	毒島 光志	村林 納理	山本 哲史
安渡 慶	福川 聰志	井上 摩美	片畠 博貴	白石 達也	谷村 英高	橋詰 香奈	北條 恵美	村林 春樹	吉澤 宏之
		宮野 太津矢	岩本 樹明	金村 聰	杉本 智則	且過 ちあき	秦 龍藏	前川 一成	安田 威
									和氣 良浩

世界の誠心循環委員会

基本方針

世界を持続的な発展へと導く循環の起点となる人びとを創出していくます。

事業計画

私たちは、国際社会における自らの現状を俯瞰的に捉え、受け継がれてきた精神性に誇りを持ち、未来を創造する当事者として責任を自覚し、異なる背景や価値観から新たな可能性を見出し、世界を持続的な発展へと導く循環の起点となる人びとを創出していくます。

事業報告

1. 世界の誠心循環事業の企画と実施

事業の内容	World EXPO 2016 ~心のつながりが世界を変える!~
実施日時	9月3日(土)
場所・会場	グランフロント大阪コンベンションセンター
参加人数報告	計画: TOYP メンバー: 5人 / 一般参加者: 1,403人 結果: TOYP メンバー: 4人 / 一般参加者: 4,632人
実施方法の工夫	より多くの人びとに運動を発信するため、次代の誠心育成委員会と同時開催という手法をとることにより、大規模な事業を展開することができました。
事業目的に達した点	世界の未来共創室の合同事業として共通のテーマを掲げ、様々な団体や著名な講師にご協力頂き、国境を越えてしなやかな誠心の連鎖を拓げていく人びとを創出することができました。
事業目的に達しなかった点	TOYP メンバーが直前に1人不参加となった。





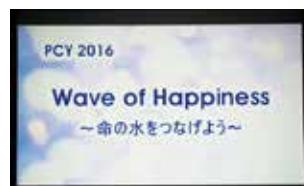
松山 大耕（妙心寺退蔵院 副住職）



出雲 充（株式会社ユーゲレナ 代表取締役）



堀江 貴文（元株式会社ライブドア 代表取締役）



2. 世界の誠心循環事業の企画と実施

事業の内容	TOYP事業	
実施日時	9月1日(木)～9月7日(水)	
場所・会場	ホテルコスモスクエア国際交流センター・ものづくりビジネスセンター大阪(MOBIO)・THE GARDEN ORIENTAL OSAKA(旧大阪市公館)・グランフロント大阪コングレコンベンションセンター・リーガロイヤルホテル大阪(グラントック)・井戸能舞台・築地市場・東宮御所・NINJA AKASAKA	
参加人数報告	計画：TOYPメンバー：5人／JCI大阪メンバー：59人	結果：TOYPメンバー：5人／JCI大阪メンバー：35人
実施方法の工夫	1週間に渡る事業期間中、TOYPメンバーに日本人の持つ精神性や育まれてきた「おもてなしの心」を感じてもらえるよう体験型プログラムを多数取り入れました。	
事業目的に達した点	各種プログラムへの参画を通じてTOYPメンバーにも誠心の意味そしてその大切さを理解してもらいました。また、World EXPOにおけるプレゼンテーションは非常に貴重な機会であったとの感想を得られました。 事業終了後もTOYPメンバーと委員会メンバーがSNSなどを通じて交流を続けています。	
事業目的に達しなかった点	TOYPメンバー1人がプログラム3日目から、同1人がプログラム4日目からの参加となった。	



私たち世界の誠心循環委員会は、誠心響き合う共創都市大阪の実現のために、世界を持続的な発展へと導く循環の起点となる人びとを創出していくことを運動として、本年度で35回目を迎える継続事業であるTOYP事業を実施するとともに、世界の未来共創室合同事業として次代の誠心育成委員会と連携して「World EXPO 2016～心のつながりが世界を変える!～」を開催致しました。

TOYP事業ではビジネスにおいてイノベーションを起こしている傑出した若者5名を世界の三大陸より招聘し、7日間に渡る濃密なスケジュールの中で大阪並びに日本の伝統芸能や食文化に触れ、また沢山の人びとの交流を深めてもらうことにより、大阪人並びに日本人が歴史の中で醸成してきた重んずべき精神性を感じて頂きました。

また、TOYP事業期間中にグランフロント大阪コングレコンベンションセンターにて開催されましたWorld EXPO 2016には、4,000名を超える都市の人々にご参加を賜りました。松山大耕氏、堀江貴文氏、出雲充氏といった講師の方々の基調講演、そして、TOYPメンバーのプレゼンテーションなどに触れて頂くことで、自らの現状を俯瞰的に捉え、受け継がれてきた精神性に誇りを持ち、未来を創造する責任を自覚し、異なる背景や価値観から新たな可能性を見出し、世界を持続的な発展へと導く循環の起点となる人びとを創出することが出来ました。

室合同での事業開催ということもあり相乗効果も相まって「心のつながりが世界を変える!」という我々の掲げた趣旨を多くの人たちに共感して頂けた一日になったと確信しております。

最後になりますが、世界の誠心循環委員会に賜りましたご支援・ご厚情に対し心より御礼申し上げます。1年間本当にありがとうございました!

Ryubun
Kojima



委員長
小嶋 隆文

スタッフ

幹事	副委員長	委員	岡本 秀一	上農 真	田中 英穂	能村 純己	前田 徹	安井 将祐
稻次 啓介	川嶋 幸一	有馬 豪志	奥 朋也	菊池 頤	田中 昌浩	服部 悠介	増永 充浩	山口 恭伸
合田 昌史	野崎 航祐	稻森 康	奥村 直謙	岸野 亜弓	田邊 武志	馬場 裕也	松本 篤志	山本 展大
林 利恵	堀中 政則	上田 智史	小原 佳人	木村 敏治	玉野 倫弘	林 耕造	守倉 友希	山本 雅史
山川 正時	山田 浩介	大串 安弘	勝亦 謙介	米谷 素明	十川 知芳	平岩 佑彦	森下 修二	横 大貴
大和 大司	横山 哲也	大槻 高史	金山 紘彰	重松 知宏	永井 亜樹	堀 志帆	森田 修二	吉内 一洋
		大野 英昭	嘉納 秀憲	清水 典隆	中村 健	前田 一徳	森田 友祐	和倉 由佳

会員交流室

Naoto
Yoshida



室長

吉田 直人

2016年度の会員交流室では、誠心響き合う共創都市大阪の実現のために、「今こそ、地域や国境を越えた連携を！」をテーマに掲げ、目指すべき理想の実現のためには、これまで以上に同志の力を束ねなければなりません。今こそ、連綿と受け継がれてきた関係性を活かし、より広域な連携で課題解決に取り組み、連帯感あふれる共創の中核となる組織が必要だと考え、3つの委員会で運動を展開して参りました。そのためには、受け継いできたつながりの価値を理解し、感謝の気持ちで同志と支え合い、より広い視野で新たな交流を模索し、積み重ねてきた関係のもとでより強固な連帯感を生み出し、地域や国境を越えてしなやかな誠心の強い発信源となるメンバーを増やしていくことが先決であると考えました。

会員交流委員会では、年頭に先輩諸兄と現役が交流を深め、私たちまで受け継がれてきた価値を理解する新年名刺交換会や世代や立場を越えた関係性を深めるOB現役交歓会を開催し、常に自らを支えてくれている家族にも参加してもらい、より公に向き合うことの大切さを次代に贈り継ぐ家族会を開催しました。

国内渉外委員会では、1年間を通して、大阪ブロック・近畿地区協議会・日本青年会議所が行う事業への参加促進と出向者支援を行い、京都会議をはじめ、スマーコンファレンス、全国大会広島大会では、他者を慮る心を携え多くの出向者支援し、メンバー同士の絆を深め、地域を越えた仲間と連携を生み出すメンバーを多く輩出しました。

国際渉外委員会では、私たちが持つ国際ネットワークを活かし、シスターJCや広域な同志と価値観や固定観念を越えて、世界の同志との関係性を深め、ASPAC高雄、世界会議カナダ大会へのメンバーの参加促進と企画運営をし、世界中の仲間との連携の起点となるメンバーを溢れさせました。

会員交流室では、つながりの価値を理解し、感謝の気持ちで同志と支え合い、広い視野で新たな交流を模索し、積み重ねた関係により強固な連帯感を生み出し、地域や国境を越えてしなやかな想いを強く発信するメンバーを増やし、誠心響き合う共創都市大阪の実現への一助となったと確信しております。1年間ありがとうございました。

所属委員会

会員交流委員会
国内渉外委員会
国際渉外委員会

室テーマ

今こそ、地域や国境を
越えた連携を！

会員交流委員会

基本方針

誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

事業計画

私たちは、受け継がれてきたつながりを認識し、積み重ねてきた関係を強固にし、公への想いを未来へ贈り継ぐ意欲を持ち、紡がれてきた使命を志へと昇華させ、揺るぎない連帯感をもって共創を生み出すメンバーを増やし、誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

事業報告

1. 新年名刺交換会

事業の内容	受け継がれてきたつながりを認識し、連綿と積み重ねてきた有益な関係を強固にし、揺るぎない連帯感をもって共創を生み出すメンバーを増やします。
実施日時	1月6日(水)
場所・会場	帝国ホテル大阪3階(孔雀の間)
参加人数報告	計画：OB：200人／現役：550人 合計：750人 結果：OB：239人／現役：550人 合計：789人
実施方法の工夫	受付時に書き初めとして、今年度の大坂青年会議所における意気込みを表現する漢字一文字を、A5の和紙に書いて頂きました。また、茶楽会にご協力頂き、年初にふさわしい和のイメージを提供して頂くと共に、日本の残すべき文化を体感して頂く機会を提供しました。
事業目的に達した点	世代や立場を越えた人びとと共に公への想いを基軸に培ってきたこれまでの関係性をさらに深く強くする機会を幾度となく提供したこと、本年度の運動の方向性を理解することができ、活動に対する意欲を高めて頂くことができました。また、公への想いを基軸に培ってきたこれまでの関係性をさらに深めて頂くことができました。
事業目的に達しなかった点	先輩諸氏がどういった想いで活動してきたかを理解してもらうための過去事業の映像を、見ることのできなかった参加者がいたり、また見ても十分にその想いを感じて頂く事ができませんでした。また、十分な交流の時間が取れず、OBとの名刺交換を通じて先輩諸氏の活動に対する想いを十分に感じて頂くことができませんでした。





2. OB現役交歓会

事業の内容	受け継がれてきたつながりを認識し、連綿と積み重ねてきた有益な関係を強固にし、先人から紡がれてきた使命を自らの志へと昇華させることのできるメンバーを増やします。
実施日時	8月3日(水)
場所・会場	リーガロイヤル大阪 タワーウイング3階(光琳の間)
参加人数報告	計画：OB：190人／現役：530人 合計：720人 結果：OB：158人／現役：530人 合計：688人
実施方法の工夫	大阪JCより輩出してきた歴代会頭の紹介映像の後、山本会頭にスピーチを頂戴し、大阪JCのもう一つの歴史を感じて頂きました。また、会場内の席次を仕事の業種別に分けることで、OBと現役が最初の会話を始めやすい環境を作りました。
事業目的に達した点	席次を業種別に分けたことでより深い交流が生まれ、多くの参加者に受け継がれてきたつながりを認識して頂くことができました。また、今年度の活動の中間発表と、今後への熱い想いを理事長より頂戴し、来場者へ熱い想いが伝わり、心の交流を実感して頂くことができました。そして、周年誌をデジタルデータ化し、映像に編集して上映することで、先人から紡がれてきた使命を自らの志へと昇華して頂くことができました。
事業目的に達しなかった点	特になし





3.会員交流事業

事業の内容	公への想いを未来へと贈り継ぐ意欲を持ち、搖るぎない連帯感をもって共創を生み出すメンバーを増やします。
実施日時	10月15日(土)
場所・会場	堺・緑のミュージアム ハーベストの丘
参加人数報告	計画：メンバー：150人／同伴大人：50人／同伴中学生以下：50人 合計：250人 結果：メンバー：168人／同伴大人：47人／同伴中学生以下：82人 合計：297人
実施方法の工夫	野外広場の中心にやぐらを建て、屋台を並べて秋祭りをイメージした会場を設営し、屋台やダンスを家族や仲間と一緒に楽しんで頂きました。また、フィナーレとして250発の打ち上げ花火を上げることで、JCの事業ならではの特別感を感じて頂きました。
事業目的に達した点	住み暮らす都市の未来を創る活動に誇りを感じる挨拶を理事長より頂戴したこと、参加して頂いた家族の方にも青年会議所活動への誇りを感じて頂くことができました。また、ラッキイ池田氏の講演による「みんなでダンス」を、来園されていた人たちを巻き込んで行ったことで、大阪青年会議所の関係者のみならず、大阪の都市に住み暮らす人々とも一体感を高め、誠心響き合う強いつながりで結びついた連帯感を築き上げて頂くことができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

私たち会員交流委員会は、メンバー一人ひとりが、誠心響き合う共創都市大阪を実現する為に揺るぎない連帯感をもって共創を生み出すメンバーを増やすことを目的に運動を展開してまいりました。

1月に実施した新年名刺交換会では、オープニング映像に数々の功績(過去事業)を盛り込み受け継がれてきた66年間の歴史を認識し、城阪理事長より「誠心響き合う共創都市大阪の実現」への想いと抱負を熱く語って頂き、公への想いを基軸に培ってきたこれまでの関係性をさらに深く強くすることができました。

そして、8月にOB現役交歓会を実施し、先人から紡がれてきた使命を自らの志へと昇華させる為、1冊しか残っていないものもある周年誌をデジタルデータ化し、大阪青年会議所の歴史を保存するとともに、映像化しました。過去から現在へのつながりを参加者に感じていただきました。また熊本県の特産料理を提供することで、平成28年熊本地震の被災地への思いを寄せていただき、公への想いを高め、被災地支援において大阪青年会議所OB、メンバー間の連帯感を築き上げました。

さらに、10月に堺市ハーベストの丘で開催した会員交流事業では、メンバーのご家族を含めて参加者全員が楽しめる大阪青年会議所だからこそできる特別感をもってBBQ、クラフトアート、動物とのふれあい体験、オリジナル花火、オリジナルダンスなど多種多彩なファンクションを体験していただき揺るぎない連帯感を築くことが出来ました。

一年間の事業を通じて運動を展開した結果、私たちは受け継がれてきたつながりを認識し、積み重ねてきた関係を強固にし、公への想いを未来へ贈り継ぐ意欲を持ち、紡がれてきた使命を志へと昇華させ、揺るぎない連帯感をもって共創を生み出すメンバーを増やし、誠心響き合う共創都市大阪を実現することが出来ました。

Takaaki
Miyamoto



委員長
宮本 高明

スタッフ

幹事	副委員長	委員	浦本 佳則	近藤 圭	高山 匡貴	中島 嶽人	羽藤 将志	松野 徹也	米倉 健太
池ヶ谷 昌良	加藤 勝太	青山 快鳳	苧木 太郎	税所 直子	田中 克憲	中西 隆人	原 和也	森 一平	米村 栄一
大石 佳範	中神 明生	有川 陽介	小野 晋司	坂 昌樹	田中 良龍	永本 宗秀	半田 貴子	森 祐輔	和多田 泰久
竹上 新治	中村 文彦	石橋 達也	工藤 恵太郎	徐 光一	土山 貴浩	朴 憲久	肱岡 徹	森村 洋右	
野田 賢太郎	松下 淳一	市村 知恵	小坂 梨緑菜	神藤 昌平	中川 利治	橋本 有司	廣田 智哉	吉谷 泰彰	
林 建太郎	森光 大輔	宇野 浩一	小淵 隆大	杉本 香澄	長島 広明	長谷川 陽介	細田 孝浩	依田 雅	

国内渉外委員会

基本方針

誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

事業計画

私たちは、組織を進化させる役割を認識し、仲間の挑戦を支える気概をもち、互いの志を高め合う関係を築き、公に資する強い心を基軸に行動し、しなやかな誠心をもって活力みなぎる未来へと躍動するメンバーを溢れさせ、誠心響き合う共創都市大阪を実現します。

事業報告

1. 京都会議

事業の内容	日本JC事業への参加促進および支援
実施日時	1月21日(木) ~ 1月24日(日)
場所・会場	京都
参加人数報告	計画：425人 結果：394人
実施方法の工夫	本年度は山本会頭をはじめとします230人のご出向者の皆様にLOMの支援と思いを感じて頂き、またご出向者の皆様に日本青年会議所の中のLOMの位置づけを感じて頂くことで、LOMに対する誇りと帰属意識を高めて頂くことをテーマとして開催いたしました。
事業目的に達した点	年初の日本JCの運動方針の発信の場となる京都会議にて、大阪JCメンバーが一堂に会し、また出向者の方々に登壇頂くことで門出を祝うとともに、互いの決意を新たに活動に邁進する気概を高めました。
事業目的に達しなかった点	動員目標425人に対し、394人の結果となり、運動の広がりという点において達成することができませんでした。



京都会議

2. 近畿地区大会 茨木大会

事業の内容	日本JC事業への参加促進および支援
実施日時	7月9日(土)
場所・会場	茨木
参加人数報告	計画：300人 結果：297人
実施方法の工夫	出向者の支援は元より、同じ北地域の仲間としてきた地域8LOM 合同例会を帝国ホテルにて開催させて頂いたこともあり、大阪JCとして最大限の協力態勢を以て参加促進致しました。
事業目的に達した点	大懇親会では誠心響き合うしなやかないか焼きでJCI大阪を発信し、20人の出向者の支援を致しました。
事業目的に達しなかった点	特になし

3. サマーコンファレンス

事業の内容	日本JC事業への参加促進および支援
実施日時	7月14日(木) ~ 7月17日(日)
場所・会場	横浜
参加人数報告	計画：500人 結果：385人
実施方法の工夫	出向者支援は元より、次年度理事長予定者の発表や、15年ぶりに会頭を輩出したLOMとして、多くの方々に参加を頂きました。また172本のお酒配りに向け、京都会議の反省を踏まえて早くから横浜入りし、対応をしていきました。
事業目的に達した点	山本特別顧問の、次年度日本JC会頭受諾スピーチ並びに輩出LOM理事長挨拶を拝聴することで、大阪JCとしての誇りをさらに高めました。また、180人の出向者の支援を致しました。
事業目的に達しなかった点	385人の結果となり、近年では最高の参加者数とはなりましたが、動員目標500人に対し、運動の広がりという点においての目標には達することができませんでした。

4. 大阪ブロック 大東大会

事業の内容	日本JC事業への参加促進および支援
実施日時	9月22日(木)
場所・会場	大東
参加人数報告	計画：300人 結果：281人
実施方法の工夫	中島監事が副会長をされており、また副主幹の事業ということもあって、全国大会直前という厳しい日程の中、大阪JCとして最大限の協力態勢を以て参加促進致しました。
事業目的に達した点	中島監事、森西副室長をはじめとする、36人の出向者の支援を致しました。
事業目的に達しなかった点	特になし



近畿地区大会 茨木大会



サマーコンファレンス



大阪ブロック 大東大会

5.全国大会 広島大会

事業の内容	日本JC事業への参加促進および支援
実施日時	9月24日(土)～9月27日(火)
場所・会場	広島
参加人数報告	計画：479人 結果：568人
実施方法の工夫	広島開催という今年度の意義のあるメッセージ性の強い全国大会において、また会頭輩出LOMとしてより多くのメンバーに参加して頂きました。
事業目的に達した点	式典での山本次年度会頭演説はじめ、志同じくする仲間の卒業式の場に集うことで、一年の労をねぎらい、またさらに高い目標に向かって邁進していく意欲を高めました。
事業目的に達しなかった点	特になし



全国大会 広島大会

スタッフ

幹事	副委員長	委員	大西 清和	川崎 聰介	清水 勇宏	塙本 慶太郎	中田 雅英	備前 秀和	森田 龍二
岡田 裕作	戎 健太郎	青山 修	大西 潤	河内 良	高橋 弘樹	辻 直孝	行方 正樹	北條 陽子	安田 圭佑
菅 繁伸	樋口 範義	池田 大介	大西 正敏	菊地 正吾	竹内 慎也	坪内 基真	西谷 香世	松永 浩明	山岡 慎二
永廣 勇資	穂積 隼人	岩谷 良平	小川 将史	小寺 陽平	竹内 孝博	磨谷 慎太郎	橋野 久人	茱津本 二夜	山崎 新平
野津 正守	松田 晋	上村 千代	奥野 雅明	坂本 哲平	竹澤 理	鳥井 一	播磨 克彦	三島 大輔	山本 洋子
八尾 介	村上 秀信	大谷 耕司	金谷 浩樹	塩津 立人	谷 和也	長井 雅開	久留 篤	三宅 幸太	吉田 健太郎

私たち国内涉外委員会は、第66代理事長 城阪千太郎理事長が掲げられます誠心響き合う共創都市大阪の実現に向けて、しなやかな誠心をもって活力みなぎる未来へと躍動するメンバーを溢れさせてるために一年間、各委員会と連携し様々な事業に取り組んで参りました。

2016年度日本青年会議所では第65代会頭として山本特別顧問を輩出する大変重要な役割を担う年でもあり、「強く優しくしなやかに あらゆる価値の根源となれ!」をスローガンに掲げられた日本青年会議所に220名を超える出向者の方に自らの役割と責任、そしてJCI大阪のメンバーである誇りを胸に抱いて出向して頂きました。そんな中、1月の京都会議に始まり、7月の近畿地区大会茨木大会、サマーコンファレンス、9月の大阪ブロック大東大会、そして、全国大会広島大会など数多くの場で、活動させて頂く機会を頂戴し、日本JCの活動により多く触れて頂くことで、日本JCへの出向の意義や、日本JCの数多くの事業への参画意義を大阪青年会議所メンバーに感じて頂く機会を提供し、地域を超えた連携を生み出す行動力を育んで頂くことができたと確信しております。また、日本青年会議所、近畿地区協議会、大阪ブロックへと出向して頂いているメンバーの皆さんの、日頃ではLOMメンバーの目には見えない活動や、国、地域を超えた志を、各種大会のLOMナイトを通じて、多くのメンバーに触れて頂く機会を創出し、支援態勢を確立し、出向者としての責任感を高めて頂くことで、互いの志を高め合って頂いたことが何よりの意義がありました。一年の活動を通じて、大阪青年会議所メンバーに活力みなぎる未来へと躍動するメンバーを溢れさせることで、誠心響き合う共創都市大阪を実現することができたと確信しております。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜り誠に有難うございました。

Tatsuya
Tone



委員長
刀祢 達哉

国際涉外委員会

基本方針

国境を越えしなやかな誠心を響かせ合うメンバーを溢れさせます。

事業計画

私たちは、様々な地域の課題と自らの関係を俯瞰的に捉え、志を同じくする仲間の多様な価値観を受け止め、新たなつながりを生み出していく行動力をもち、私事を越えて活力溢れる未来を想い描き、国境を越えしなやかな誠心を響かせ合うメンバーを溢れさせます。

事業報告

1. シスターJCとの交流推進

事業の内容	台湾JCと大阪JCの交流を深め、メンバー間の親睦を深めることでASPAC高雄大会の成功に導く機会を実施致しました。
実施日時	3月13日(日)
場所・会場	大阪市内
参加人数報告	計画：39人 結果：48人
実施方法の工夫	今後のお互いの事業を成功させる為に会議や懇親をはかり、今後の事業成功に向けてコミュニケーションを取ることができました。
事業目的に達した点	JC台北との交流を持つことで、国際的なつながりを身近に感じてもらうことができました。
事業目的に達しなかった点	国際関係のある事業の委員会には参加して頂くことが出来ましたが参加者に偏りがでました。

2. ASPAC高雄大会

事業の内容	JCI大阪青年会議所メンバーを対象に、今まで有効な関係を築いてきたシスターJCメンバーや他NOMと交流を持つために国際青年会議所が開催するエリア会議において、他者の想いを寛大に受け止める柔軟性を養ってもらう機会を実施するための参加促進。
実施日時	6月2日(木)～6月5日(日)
場所・会場	高雄(台湾)
参加人数報告	計画：310人 結果：341人
実施方法の工夫	JCIメンバーに向けて、月例会や各委員会にて参加促進を行いました。
事業目的に達した点	シスターJCと交流するためにLOMランチョンを開催し、より多くのメンバーに多数参加してもらうことができました。
事業目的に達しなかった点	特になし





3. 世界会議ケベック大会

事業の内容

JCI 大阪青年会議所メンバーを対象に、有益な国際的ネットワークを構築していく意欲を高めてもらい、様々な地域の人びとと平和に暮らせる世界を想い描く想像力を磨いてもらい、世界に住み暮らす人びとへと誠心を共鳴させるメンバーを創出するための参加促進。

実施日時

10月30日(日)～11月4日(金)

場所・会場

ケベック(カナダ)

参加人数報告

計画：200人 結果：67人

実施方法の工夫

JCIメンバーに向けて、月例会や各委員会にて参加促進を行いました。

事業目的に達した点

世界規模で開催していることを参加したメンバーに体感してもらうことができました。

事業目的に達しなかった点

遠方、実施する日程が長かったため、参加動員するための工夫が足りず参加人数が少なくなりました。





私たちは、様々な地域の課題と自らの関係を俯瞰的に捉え、志を同じくする仲間の多様な価値観を受け止め、新たなつながりを生み出していく行動力をもち、私事を越えて活力溢れる未来を想い描き、国境を越えしなやかな誠心を響かせ合うメンバーを溢れさせることを目的として活動をして参りました。

まずは、3月に開催したJCI台北との交流事業において、お互いの事業について話し合い、懇親をはかることで地球規模の視点で考える意識を芽生えさせる交流事業を行いました。

次にASPAC高雄にてシスターJCの交流を目的にLOMランチョンを開催し、341名のJCI大阪メンバーに参加してもらうことができました。またシスターJCのJCI台北、JCIブノンベン、JCIヴィクトリア、JCIウランバートルにも参加してもらうことができ、他者の想いを寛大に受け止める柔軟性を養ってもらうことができました。

さらに、世界会議ケベック大会には遠方にも関わらず多数の方に参加してもらうことができました。総会や各ファンクション、ジャパンナイト、GALAに参加し各国メンバーと交流してもらうことで有益な国際的ネットワークを構築していく意欲を高めてもらい、様々な地域の人びとと平和に暮らせる世界を想い描く想像力を磨いてもらい、世界に住み暮らす人びとへと誠心を共鳴させるメンバーを創出することができました。

このようにして、私たちは、様々な課題と自らの関係を俯瞰的に捉え、同志の価値観を受け止め、新たなつながりを生み出す行動力をもち、私事を越えて活力溢れる未来を想い描き、国境を越えしなやかな誠心を響かせ合うメンバーを溢れさせ、誠心響き合う共創都市大阪を実現しました。

Kosuke Ozawa



委員長
小澤 廣介

スタッフ

幹事	副委員長	委員	伊藤 圭亮	尾上 尚史	里内 博文	飛松 智志	中山 浩介	藤井 裕介	米澤 直斗
城戸 邦宏	島 哲士	青山 達至	伊藤 さおり	叶 郁美	島田 直樹	中井 智子	新田 雄士	道野 弘済	
島田 健作	高城 康二	池上 恒介	伊藤 良夏	川崎 勝洋	鈴木 伸行	中川 貴嗣	能浦 忠道	道前 廉高	
伊達 則幸	中嶋 啓介	池田 成範	海野 由将	久保 武範	竹垣 敦啓	中田 耕平	原 英彰	皆川 友範	
富長 大介	林 芳弘	石原 佑也	圓藤 政臣	小泉 和久	田中 寛樹	中谷 龍太	廣橋 一早	森 和孝	
山口 敦央	山根 ひろみ	一坂 正和	大塚 華世	胡内 孝美	恒岡 澄典	中村 佳織	福井 絵莉子	山本 剛士	

総務室

Yoshihiro
Hatta



室長

八田 善博

2016年度総務室では、誠心響き合う共創都市大阪の実現のために、「しなやかな組織で未来を拓こう!」をテーマに166名がチーム一丸となり、しなやかな誠心を響かせ合い1年間邁進してきました。

私たち総務室は、課題も含めた現状を大局的に捉え、過去から連綿と紡がれてきた財産を承継し、未来を見据えた目指すべき理想の姿を想い描き、公に資するあらゆる想いを行動へと昇華し、活力みなぎる都市を共創していく中核的役割を担う組織の礎を築くことを目的に3つの委員会で運動を展開して参りました。

JCI大阪発信委員会では、広報誌の発刊、ホームページ、FacebookなどのSNSを活用し、対内対外に向けて幅広く広報活動を実施しました。また広報戦略コンプライアンス審査会議を実施し、他の委員会と連携して戦略的かつ効果的な広報を行いました。さらに大阪FunFanClub(サポートーズクラブ)を設立しました。一年間を通じ都市に溶け込む広報活動を行い、しなやかな誠心を拡げる運動を展開しました。

資質向上委員会では、城阪理事長の掲げられる目的とその方向性を組織全体で共有し、またメンバー一人ひとりの資質を向上し、都市を共創していく志を高めるべく運動を展開しました。毎月の月例会においては、理事長所信に基づいたテーマを設定し、様々な分野の著名な講師による講演を実施しました。さらに全11回のJCIセミナーを開催し、また外部からもセミナー講師をお招きし、多様な場面で活用できる資質向上に努めました。また会員大会では多くのメンバーが参加し、誠心響き合う共創都市大阪を創る活力あふれる人財を創出することができました。

総務財政委員会では、年始の池田会議から始まり、各種セミナーの実施、諸会議の設営など組織の要としてしなやかな誠心を搖るぎない基軸として運動を展開しました。本年度は基本資料の整備をはじめ、各種マニュアルの整備に注力し、チーム一丸となって運動を展開していく組織の中核的役割を果たすことができました。

総務室は、変化の気運高まる現在に、不斷の努力で公に尽くしてきた大阪青年会議所の新たな役割を果たすべく、これまで以上に都市に溶け込み、守るべきものを大切にしながら変化し、人びとの誠心の集約拠点かつ強い発信源となる組織で誠心響き合う共創都市大阪の実現への一助となつたと確信しております。1年間ありがとうございました。

所属委員会

JCI 大阪発信委員会
資質向上委員会
総務財政委員会

室テーマ

しなやかな組織で
未来を拓こう！

JCI 大阪発信委員会

基本方針

しなやかな誠心を拠げる発信源となるメンバーを増やしていきます。

事業計画

私たちは、様々な背景から生まれる多様性に関心をもち、時代に先駆け変化してきた組織の役割を認識し、受け継いだ志を次代に贈る責任を自覚し、人びとの心に宿る公に資する想いを呼び覚まし、しなやかな誠心を拠げる発信源となるメンバーを増やしていきます。

事業報告

1. 対外向け広報の実施

事業の内容	都市の人びとに対して、JCI大阪の存在感を高め、JCI大阪メンバーに共創する都市の人びとの発信源となる事業。
実施日時	通年
場所・会場	なし
参加人数報告	計画：なし 結果：なし
実施方法の工夫	従来のホームページに加え新たに動画の掲載を行い、またFacebookだけでなくInstagramやTwitterでの活動報告を実施し、J:COMにCM配信を行うことで、都市に溶け込み効果的にJCI大阪を発信しました。
事業目的に達した点	SNSなど様々な広報手法を複合的に実施したことで、より多くの市民にJCI大阪の認知度を向上することができました。またFacebookでは広く広報できることで、海外からの窓口としても機能することができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

2. 会員向け広報の実施

事業の内容	大阪JCメンバーに組織の存在意義を継承してもらう事業。
実施日時	通年
場所・会場	なし
参加人数報告	計画：なし 結果：なし
実施方法の工夫	FacebookなどSNSを複合的に活用して各種事業の即時的情報発信を実施しました。またFacebook内でメンバー紹介コーナーや委員会コーナー、HP内でのメンバー紹介など、メンバーにスポットライトを当てることで、意識向上をめざしました。
事業目的に達した点	年間を通じて各種事業の活動報告を実施することで、メンバーの組織への理解度と愛着心を高めることができました。
事業目的に達しなかった点	特になし





3. JCI褒賞事業へのエントリー調整

事業の内容	JCIアワード (ASPAC、世界会議)・JAPANアワードへのエントリー調整の過程において、事業分析の機会提供と、JCI大阪メンバーに組織の一員としての自信や誇りをもってもらう事業。
実施日時	通年
場所・会場	JCI大阪事務局、JCI ASPAC高雄大会、全国大会広島大会、JCI世界会議ケベック大会、大阪ブロック大納会
参加人数報告	計画：なし 結果：なし
実施方法の工夫	日本JCムーブメント拡大委員会と連携し、説明会を2回実施しました。また、日本JCのアドバイザーを効果的に活用することにより、より精度の高いエントリー原稿を作成しました。
事業目的に達した点	アワード勉強会を通して、メンバーに議案の背景と目的を再考する機会を提供することができました。また、褒賞事業のエントリーとしては、ASPAC、世界会議だけでなく、全国大会、大阪ブロック褒賞と広く運動発信の機会となりました。全国大会では真の拡大LOM賞を受賞しました。
事業目的に達しなかった点	ASPACでは9エントリーに対し1ノミネート、全国大会では6エントリーに対し2ノミネート、世界会議では9エントリーに対し、2ノミネート、アワード受賞は無でした。他国の受賞原稿を分析し、勉強会などを通して指南していくことが必要です。

4. サポーターズクラブの設立と運用

事業の内容	市民へ事業の告知や事業報告・検証を行うことを通じて、JCI大阪メンバー一人ひとりが市民の集約拠点となる事業。
実施日時	通年
場所・会場	なし
参加人数報告	計画：なし 結果：なし
実施方法の工夫	『大阪 Fun Fan Club』としてサポーターズクラブの設立を行いました。また多くの人びとにその存在をPRするためにLINE@を設置し、各事業でブースを出展しました。
事業目的に達した点	『大阪 Fun Fan Club』のWEBサイトを立ち上げ、対外向け広報や各事業でのブース出展を通じ、都市の人びとに広くその存在を発信することが出来ました。
事業目的に達しなかった点	企業や個人会員の獲得に向け、さらなる広報手法の拡大と、情報発信を行っていく必要があります。



私たちJCI大阪発信委員会は約1,200名の組織として大阪、日本そして世界に展開する運動を、都市に溶け込み戦略的かつ効果的に発信し続けることで中核的役割を担う使命感を高め、しなやかな誠心を拡げる発信源となるメンバーを増やしていくことを目的として1年間活動してまいりました。

本年度はFacebookの『いいね!』を様々な方法で増やしていく、飛躍的に増加させることができ、リーチ数でも最大15,000を超える配信を記録することができました。また、本年度はFacebookだけでなく、Twitterやインスタグラムを新たに設置し、複合的にSNSを活用する元年とすることができました。その様な複合的SNSの活用により、JCI大阪の展開する事業を余すことなく発信し、また事業構築をしているメンバーの姿や想いを発信することで、都市の人びとにJCI大阪の存在意義と目的の共感を得ることができました。

またJ-COMでのCM配信を行い、従来の紙面や画像での広報だけでなく動画でのPRを行いました。結果、ホームページの動画ライブラリーやFacebookでの動画配信を含め、今後の広報ツールを拡大することができました。

さらに、多くの人びとが心に宿している社会に対して貢献したいという公への想いを集約する場としてサポートーズクラブ『大阪 Fun Fan Club』を設立し、都市の人びとと共創する意識を高めることができました。

他にも広報戦略・コンプライアンス審査会議の運営やJCI褒賞事業へのエントリー調整など、組織の中核的役割を全うすることで、本年度JCI大阪のスローガンである『誠心響き合う共創都市大阪の実現』に向けて、しなやかな誠心を拡げる発信源となるメンバーを増やすことが出来たと確信しております。

最後にメディアの方々をはじめ、ご協力賜りました関係者の皆様には心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

Takakazu
Saisho



委員長
税所 貴一

スタッフ

幹事	副委員長	委員	和泉 恵幸	熊野 賢	高岸 佳弘	常喜 毅	西村 孝太郎	前田 嘉博
石田 勝之	青木 紘史	赤田 純也	岩城 方臣	黒田 健夫	高藤 勝一	出口 一馬	福原 恵人	松田 健作
佐溝 弘通	稻吉 大輔	粟田 涼子	内田 哲	齋藤 亨	谷口 真由	富田 博文	藤原 浩貴	美崎 伸明
竹川 哲司	大仲 政樹	池上 将道	大隅 隆弘	櫻井 博	玉置 真澄	中川 康之	二村 伸紀	和田 昌子
松田 佳名	北山 以珠美	石床 敏	河田 英之	杉浦 由薰	田村 誠	鍋谷 直輝	古門 久数	
	閔口 正輝	井尻 典克	北本 武	曾根 幸将	俵山 知宣	西川 宜輝	堀北 晶子	

資質向上委員会

基本方針

人びとの想いが響き合う活力みなぎる未来を拓く人財を創出していくます。

事業計画

私たちは、自身を取り巻く事象を俯瞰的な視点で捉え、自らに眠る情熱を呼び覚まし、組織を時代の変遷に即した姿へ変化させる使命感を有し、何事にも連体感をもって取り組む気概を携え、人びとの想いが響き合う活力みなぎる未来を拓く人財を創出していくます。

事業報告

1. 資質向上事業の企画と実施

事業の内容	組織のめざす方向性を確認し、理事長挨拶、また講師講演を通じて会員の資質を向上する事業。
実施日時	1月～11月
場所・会場	帝国ホテル大阪3階(孔雀の間)
参加人数報告	計画：5,834人 結果：6,864人
実施方法の工夫	各委員会の事業プレゼンテーションや事業報告など連体感を感じていただく設営に取り組みました。また、開始から多くの会員に参加いただけるよう、委員会CMを作成いただき放映することで、スムーズな運営が行えました。
事業目的に達した点	誠心響き合う共創都市大阪の実現に向け、呼び覚まし、向上するべき資質を開催月に分け、講師選定やオープニング映像制作に取り組みました。
事業目的に達しなかった点	各月での出席率の増減については、過去の出席率を深く分析し、企画段階でさらに踏み込んだ対策の必要がありました。

2. 北地域8LOM合同事業

事業の内容	大阪北地域のLOMが一堂に会し、地域を活性化する強い指導力を發揮し、変革する当事者意識を向上させる事業。
実施日時	5月27日(金)
場所・会場	帝国ホテル大阪3階(孔雀の間)
参加人数報告	計画：678人 結果：729人
実施方法の工夫	事業当日まで8LOM合同事業実行委員会を複数回実施し、パネルディスカッションの内容等細部まで拘りました。また事業終了後にはLOM同士が強くつながれるよう、座談会を実施することで事業を振り返る機会を設けました。
事業目的に達した点	本年度は北地域8LOM合同事業として「未来へつなぐ大阪の経済創造フォーラム」を実施することで、近年までの北地域の歩みと外国人が多数訪れている現状を知り、北地域の資産を活用し地域を活性化していく必要があることの意識を高める機会を提供できたと考えます。
事業目的に達しなかった点	特になし

3.会員大会の企画と実施

事業の内容	一年の集大成事業としてJC運動の成果を称え合うアワードコンベンションを始め、理事長引継式典、卒業式を実施し、次年度に向けて活動への意欲を高める事業。
実施日時	12月8日(木)
場所・会場	リーガロイヤルホテル大阪(ロイヤルホール・光琳の間)
参加人数報告	計画：838人 結果：836人
実施方法の工夫	理事長所信から、「共創」を全体のイメージとし、エントランスにモザイクアートを設置、またオーケストラによるフラッシュモブのオープニングアクト演出を行いました。また事業画像や動画で一年間を振り返ることができるWEBサイトを制作するなど、新しい試みにも取り組みました。
事業目的に達した点	アワードセレモニー、理事長引き継ぎセレモニー、卒業式を通じて、万物に感謝する優しさと公に資する強さを基軸に人びとの想いが響き合う活力みなぎる未来を拓いていく意識を高めることができました。
事業目的に達しなかった点	特になし



4. JCIセミナーへの参加促進

事業の内容	JCIセミナーへの参加促進
実施日時	5月12日(木)～10月13日(木)
場所・会場	大阪市内各所
参加人数報告	計画：525人 結果：611人
実施方法の工夫	JCIセミナーだけではなく、外部のトレーナーに依頼し、特別セミナーとして計2回開催いたしました。開催日程についても効果的な実施期間を検討致しました。またチラシの作成やセミナー参加推奨者を明確にすることで、参加率向上へ努めました。
事業目的に達した点	JC運動をより深く理解するセミナーや社業や私生活にも活かせるセミナー等、メンバーの資質向上に繋がる各種セミナーに参加頂くことで、組織を時代の変遷に即した姿へ変化させる意識を高めることができました。
事業目的に達しなかった点	第1回及び第2回の合計2回のVMVセミナーで、予定登録数合計130人に対し、実際の登録数が合計108人となり、特に新人メンバーに対する運動の広がりという点において、目的を達成することができませんでした。



資質向上委員会は誠心響きあう共創都市大阪の実現に向け、人びとの想いが響き合う活力みなぎる未来を拓く人財を創出することを目的に運動を展開してまいりました。

本年度の月例会では城阪理事長が掲げられる組織の方向性を確認することができる場を提供することで、理想とする都市の実現に向け、連体感をもって行動し続ける意識を高めることができました。また、多彩な講師をお招きしテーマに沿った講演をいただくことで、時代と共に変化していく社会環境や日常の中に存在する事象が自身に関わっていることを広い視野で捉える意識を高めることができました。北地域8LOM合同事業では「未来へつなぐ大阪の経済創造フォーラム」を実施することで、近年までの北地域の歩みと外国人が多数訪れている現状を知り、北地域の資産を活用し地域を活性化していく必要があることの意識を高めることができました。そして合計13回開催しましたJCIセミナーでは、組織の目的と自らの役割を果たすために必要となる知識をより深く学んでいただき、JC活動への意欲を向上することができました。また、外部講師を招いての特別セミナーを新しく設けることで、何事にも臆することなく自ら率先し組織を進化させていく意識を高めることができました。そして会員大会では、一年の集大成として仲間と共に歩み続けてきた活動の過程と成果を称え合うアワードコンベンションを創り上げ、理事長挨拶では誠心響き合う共創都市大阪の実現を再確認し、理事長引き継ぎセレモニー、卒業式を通じて周囲への優しい心と公への強い心を基軸に一年間培われた想いを胸に、人びとの想いが響き合う活力みなぎる未来を拓く人財を創出することが出来たと確信しております。

Shoji
Aranishi



委員長
荒西 将志

スタッフ

幹事	副委員長	委員	片山 陽子	澤田 敦士	田中 恵美	長友 憶	藤井 茂生	森岡 将太	吉田 慧
猪久保 友広	神崎 修一	安部 久史	菊池 龍二	重田 博志	中馬 和子	野口 美奈	藤岡 亮	安富 佑希	吉武 涼子
河合 聰	佐々木 清一	新井 一秀	岸 磨沙美	壽谷 将隆	寺澤 圭志	能村 晋太郎	船倉 亮慈	山口 祥司	嘉 玲男奈
近藤 陽介	清水 雅紀	小國 博貴	木村 優太	高橋 佑太	友野 隆光	原田 裕康	星山 樹賢	山崎 由佳	由本 和雅
中嶋 隆則	高橋 顕明	落合 広規	小玉 恵美	高松 忠紀	友藤 忠昭	馬場 智巖	松井 勝吉	山本 貴也	和倉 聰美
前田 菜々実	山本 紗鈴	香川 正和	目 耕一	巽 宏彰	中尾 武史	東原 栄志	村上 亮介	山本 育	

総務財政委員会

基本方針

組織の原動力として人びとの想いが響き合う未来を拓いていく青年を溢れさせていきます。

事業計画

私たちは、不断の努力で積み重ねてきた財産を受け継ぎ、個々の役割における成すべき目的を理解し、公に対するすべての想いを受け止め、私事を越えた力強い連帯感を有し、組織の原動力として人びとの想いが響き合う未来を拓いていく青年を溢れさせていきます。

事業報告

1. スタッフセミナーの企画と実施

事業の内容	次年度、大阪青年会議所を牽引していくスタッフ(副委員長・幹事)の役割や議案作成や会計など準備する為の事業です。
実施日時	①平成27年11月26日(木)(副委員長・幹事セミナー) ②平成28年2月9日(火)・2月26日(金)(議案セミナー) ③平成28年1月25日(月)・2月22日(月)(会計セミナー)
場所・会場	大阪JC事務局
参加人数報告	計画: ①149人 ②30人 ③45人 結果: ①132人 ②35人 ③47人
実施方法の工夫	各セミナーの実施の案内を早期より開始し、本年度は議案セミナーと会計セミナーを実践形式を交え2回行いました。 またご卒業されましたその役割に特に素晴らしい功績を残された方の講演を行いました。
事業目的に達した点	■当初の参加目標人数を参加動員ができました。 ■早期より開催日程を決め、各委員会の議案担当者や会計担当者以外のスタッフの方も参加されました。またセミナーを2回開催した結果、理解が深まりました。
事業目的に達しなかった点	特になし

2. 池田会議の企画と実施

事業の内容	大阪青年会議所メンバーが一堂に会し、室方針や委員会の一年間の方向性を共有する事業。また毎年、臨時総会も開催する場です。
実施日時	1月16日(土)・1月17日(日)
場所・会場	不死王閣(池田)
参加人数報告	計画: 543人 結果: 561人
実施方法の工夫	総会では、各室ごとの1年間の室方針の発表に始まり、各委員会の事業イメージについて理解してもらいました。 また大懇親会では、全ての委員会や各室長による企画やアトラクションを開催し、メンバー全員の一体感を感じる設営をしました。
事業目的に達した点	当初の参加目標人数を参加動員ができました。 またメンバー一人ひとりが、委員会の枠を超えて交流を持つことができました。またアトラクションでは、委員会対抗や室対抗といった形で、大阪青年会議所メンバー全員が互いを応援し、それがチーム一丸となり、大きな「共創」へつながっていました。
事業目的に達しなかった点	特になし





3. 総会・理事会・財務審議会運営に関する準備と調整

事業の内容	仲間と共に理想の都市を築き上げる使命感を高めてもらう場です。
実施日時	通年
場所・会場	総会(帝国ホテル大阪)／理事会(リーガロイヤルホテル大阪)／財務審議会(大阪JC事務局)
参加人数報告	計画:なし 結果:なし
実施方法の工夫	4月から理事会開催を公開することで、メンバーや新人にも情報を共有しました。
事業目的に達した点	財務審議会では、総務財政委員会の委員会メンバーでの事前チェックと面談を行うことで、不備を少なくすることができました。
事業目的に達しなかった点	総会の参加人数が少なく、最高意思決定機関という意識をもっとJCオールなどで発信するべきでした。



総務財政委員会は、誠心響き合う共創都市大阪の実現に向けて、組織の要として、大阪の都市に溶け込む組織づくりをしてまいりました。

予定者の段階から始まりますスタッフセミナーの開催、また年初に行われる池田会議の設営及び運営に始まり、総会の設営と運営、毎月行われる理事会・財務審議会の運営と設営、理事選挙における投票準備、委員会間の情報共有の為の委員長ミーティング開催、事務局機能の充実や定款諸規則の整備などを行ってまいりました。

池田会議の臨時総会では、2016年度の室方針・委員会事業計画の事業イメージをつけて全メンバーに説明することにより、各委員会がどのような運動を展開していくか共有することができました。また大懇親会では、各委員会対抗の大運動会を行い、目標に向かって委員会チーム一丸となる場を提供することで、共創を創り出すきっかけとすることが出来たと確信しています。

財務審議会では、ルールを徹底する為に事前にマニュアルの作成を行い、また財務審議会が開催されるにあたり、事前に委員会メンバーによる予算書及び添付資料の確認を行い体裁等に不備がないかどうか、そして総務室長・委員長の面談と合わせてチェックを行うことで、メンバーからお預かりしているお金を無駄にすることのないように財務審議会のメンバーをサポートし、全ての事業について円滑かつ効果的な運動を発信できるように「しなやかな財務審議会」の運営を行いました。組織の中核的役割としてまた組織の要として裏方に徹した1年間でしたが、未来の一般社団法人大阪青年会議所が今後も強固な組織に向かうことを総務財政委員会一同心より祈念しております。1年間、本当にありがとうございました。

Masashi
Shinno



委員長
神農 将史

スタッフ

幹事	副委員長	委員	大澤 一慶	金沢 正和	才門 功作	丹波 英太郎	範舍美 口ニール	山田 隆則
金沢 大慶	杉立 慎太郎	青木 隆輔	大村 義道	金子 大智	赤代 理史	寺田 信彦	本田 泰河	柚野 寿和
木下 沙織	二宮 彰久	浅井 太一	岡本 仁志	叶 裕一	高室 直樹	徳留 雄司	丸山 晃司	和田 敦雄
玉井 旭	橋詰 源一郎	天川 洋介	奥田 知之	倉田 壮介	武田 泰治	徳永 真介	御手洗 万里衣	
辻本 卓也	本田 祐輔	入江 薫	加治 涼子	齊藤 誠一郎	田中 洋一朗	野村 均	光本 圭佑	
村尾 尚太郎		宇野 裕明	河東 猛	齊藤 雅史	谷岡 俊英	長谷川 英恵	山田 俊輔	

月例会

1月 16日
池田不死王閣

講師
明治大学文学部教授
齋藤 孝氏



2月 8日
帝国ホテル大阪

講師
サッカー元日本代表
公益財団法人日本サッカー協会理事
北澤 豪氏



3月 16日
帝国ホテル大阪

講師
アップルコンピュータ(株)元代表取締役
兼米国アップルバイスプレジデント
(株)コミュニカCEO & Founder
山元 賢治氏



4月 11日
帝国ホテル大阪

講師
多摩大学大学院 教授
シンクタンク・ソフィアバンク 代表
田坂 広志氏



5月 28日
帝国ホテル大阪

パネリスト
日本政府観光局 理事長 松山 良一氏
大阪觀光局 理事長 溝畑 宏氏
大阪府特別顧問 橋爪 純也氏
(株)やまとごころ代表取締役 村山 麗輔氏
(司会:フリーランサー 八木 早希氏)



6月 15日
帝国ホテル大阪

講師
国際政治学者
同志社大学法學部教授
村田 晃嗣氏



7月 12日
帝国ホテル大阪

講師
元宮崎県知事・元衆議院議員・タレント
東国原 英夫氏



8月 3日
リーガロイヤル
ホテル大阪

OB現役交歓会



9月 16日
帝国ホテル大阪

理事選挙本コーカス



10月 24日
帝国ホテル大阪

講師
NPO法人ファザーリング・ジャパン
ファウンダー／代表理事
安藤 哲也氏



11月 16日
帝国ホテル大阪

講師
作家・経済評論家・元経済企画庁長官
堺屋 太一氏



12月 8日
リーガロイヤル
ホテル大阪

会員大会





会員大会・卒業式

2016年12月8日(木) 17:30～ リーガロイヤルホテル大阪 光琳の間



歴代理事長たちも参加。直前理事長別所大作氏の乾杯の音頭で大会の幕が開きました。



The Annual Convention 2016

Junior Chamber International Osaka



2017年度
第67代理事長
岡部 優典



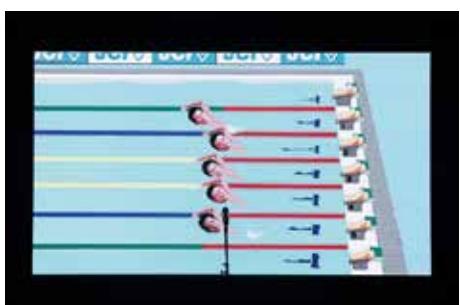
2016年度
第66代理事長
城阪 千太郎

プレゼンシャルリリース伝達式





エンターテインメント





JC運動推進賞

阪口 小百合(社会の誠心継承委員会)
下岡 佑一郎(大阪の未来選択委員会)
大阪の誠心創造委員会



特別事業賞

資質向上委員会



優秀委員会賞

会員開発委員会(藤本委員会)
総務財政委員会



最優秀委員会賞

会員開発委員会(高橋委員会)



優秀事業賞

社会の誠心継承事業の企画と実施(社会の誠心継承委員会)
次代の誠心育成事業の企画と実施(次代の誠心育成委員会)



最優秀事業賞

大阪の未来選択事業の企画と実施(大阪の未来選択委員会)



優秀会員賞

矢吹 保博(会員開発委員会 高橋委員会)
藤浪 寛(子どもの誠心育成委員会)
小田 研史(大阪の誠心創造委員会)
杉立 慎太郎(総務財政委員会)

横山 智子(未来の誠心発掘委員会)
狩野 雅彦(大阪の未来選択委員会)
山本 哲史(次代の誠心育成委員会)



最優秀会員賞

若松 耕三(会員開発委員会 藤本委員会)



優秀新人賞

齊藤 寛樹(会員開発委員会 高橋委員会)
徳田 聖也(子どもの誠心育成委員会)
和田 篤樹(大阪の誠心創造委員会)
山川 正時(世界の誠心循環委員会)
野津 正守(国内涉外委員会)
竹川 哲司(JCI大阪発信委員会)

澤村 隆宏(会員開発委員会 藤本委員会)
音野 顕宏(大阪の未来選択委員会)
辻 光哉(次代の誠心育成委員会)
林 建太郎(会員交流委員会)
山口 敦央(国際涉外委員会)
玉井 旭(総務財政委員会)



最優秀新人賞

細田 誠一(社会の誠心継承委員会)



優秀出向者賞

長野 裕樹(会員開発委員会 高橋委員会)
山根 ひろみ(国際涉外委員会)
島田 健作(国際涉外委員会)
北山 以珠美(JCI大阪発信委員会)



最優秀出向者賞

才門 功作(総務財政委員会)

※本人欠席のため代理受賞



功労賞

折竹 一郎、中島 丈裕、八木 弘晃、河野 尚樹、宮本 高明、矢谷 一朗
山本 浩二、本岡 佳小里、井上 幹盛、小澤 廣介、税所 貴一、荒西 将志



特別功労賞

城阪 千太郎



例会多年皆出席賞

2年間 荒西 将志、猪俣 洋聖、川崎 正嗣、川嶋 幸一、河野 尚樹、清水 雅紀、
田中 大介、松田 佳名、宮本 高明、吉澤 宏之
3年間 小澤 廣介、北山 以珠美、税所 貴一、島 哲士、田中 英穏、中神 明生
4年間 稲次 啓介、税所 直子、坂井 政一、田儀 利明、中島 丈裕、八木 弘晃
5年間 井上 幹盛、折竹 一郎、城阪 千太郎

2016年度 メディア掲載一覧

2016年1月1日～12月31日

日付	ジャンル	媒体名	見出し・内容
1月1日	一般紙	産経新聞(広告)	誠心響き合う共創都市大阪の実現 第66代理事長 城阪千太郎 × 日本青年会議所第65代会頭 山本樹育 大阪JCセネター会会長 更家悠介
1月1日	一般紙	日刊ケイザイ	この人に聞く／日本青年会議所会頭 山本樹育氏 大阪から16年ぶり7人目の会頭就任／民間防衛力の強化と新しい資本主義確立
6・7月号	情報誌	COMVO	情報マーケット／『M-1ボランティア大阪270万人総美化計画』～誰かのために、できることから～参加者募集
5月10日	一般紙	毎日新聞	ボランティア募集／<大阪市> M-1ボランティア大阪「270万人総美化計画」～誰かのために、できることから～」
6月13日	一般紙	毎日新聞	政治18しようよ／若者よ 投票で見返そう♥ 藤田ニコルさん呼びかけ
6月13日	インターネット	あべの経済新聞	大阪が若者投票率No.1を目指す 藤田ニコルさんが投票呼び掛け
6月14日	一般紙	産経新聞	若者よ投票へGO 趣向凝らし啓発イベント／藤田ニコルさんら同世代参加、模擬体験

「元旦・全面広告」(JCI 大阪発信委員会)

「この人に聞く／山本樹育会頭」

産経新聞(1月1日)

日刊ケイザイ(1月1日)

「M-1 ボランティア大阪 270 万人総美化計画」 (大阪の誠心創造委員会)

http://www.osaka-jc.or.jp/m1-volunteer/contact)よりお申込みください 締切：各開催日の2日前まで', 'お問合せ先 Eメール: seishinnsousouzou@gmail.com (担当:小田)'"/>

COMVO／情報マーケット(6・7月号)

募 集

★大阪市第22回開業JCCSバザーへ切手を譲ってバザーに行こう！ 14日（土）11～15時、北区の大和製薬バロー会館。被服品やアジアの手工芸品などの販売、飲食コーナー、アトラクションなど、会場で使用済み切手や書き損じハガキなどを受け付け。アジア・アフリカでの被服貿易活動に貢献する。日本キリスト

★大阪市へM-1ボランティア大阪「270万人参加
花形計画」へ誰かのために、できるからへ～」6月
12日。7月10日(いずれも日曜)8時半～17時(講
習実行、実戦止定)。中之島公園など市内6ヵ所から
ガールズ版の大阪城公園まで、一緒に花形計画。ゴー
ルフレッセで宝箱しグームやクイズも。対象は市内在住、
在勤の100人(応募多数抽選)。M-1ボランティア大
阪は「1月1日起4ヶ月以外での誰かのために行動して
みよう」と始まった運動。講習道員やユニフォーム販
賣。大阪青年会議所原町部(06-5751-5161。http://www.osaka-jc.or.jp/m1-volunteer/)。

アーバンリゾートモリス 沖縄のリゾート地で、琉球支那ボランティアティモ月曜日～金曜日と18時40分～20時45分、天王寺区の大阪国際交流センターインフォメーションセンター内会場にて、各界にルーツをもつ子どもたち（中高生）の学習支援、対象は大学生以上。両者不開。6月8日(月)18時に開催会（予約制）。大阪

国際交流センター (05-5773-8182)

イベント

◆<兵庫県>楽しいボランティアひろば2016（6月5日（日）10～15時、伊丹市の国際エンゼル協会。バングラデシュ体験、手芸展示・販売、サリー着付け、運びコーナー、横横店など。国際エンゼル協会 072-724-7504）。

イア
◆大阪市姫路がいの町のため! T-Sポーター(パソコンボランティア)蔵原修成館、蔵1階14日(土)、21日(土)10~17時(12日17時切り)▼第2回=6月7日(火)、9日(木)、10日(金)13~17時(5月1日締め切り)。蔵原のコースを選択、希望を希望する障害者のためのパソコン講習を自立支援のため企画。会場は天王寺区の蔵! T-Sステーション。対象は府内在住・在勤・在学の20歳以上で、パソコンの知識とインターネット接続操作がある人。蔵コース15人。蔵! T-Sステーション: 06-6766-1238。

◆大阪市>国語セミナー「イギリスの子どもの音韻・先駆者から園庭の音韻をもぐらかす方法を考る」~6月19日(金)14時半~16時半、西区の市社会福祉研修・国語セミナーで開催。講師はボーリマス大教授で、政府国語アドバイザーを勤める。ダン・フィンさん。同時に満席につつ。対象は市内在住、在勤者。在学の60人。6月8日(月)締め切り。参加無料。市社会福祉研修
国語セミナー (06-4392-5501)

「ホランティア」版へ。コネクス70・80M・初期・最終一巻

毎日新聞／ボランティア募集(5月10日)

ULTRA VOTE PROJECT (若者の投票率大阪 No.1) (大阪の未来選択委員会)

毎日新聞(6月13日)

産経新聞(6月14日)

あべの経済新聞(6月13日)

2016年度 主な広報制作媒体(委員会別)

2016年1月1日～12月31日

会員開発委員会



外観



中面



新入会員拡充事業（1～3月）
入会パンフレット（4p）・名刺サイズリーフレット（4p）

未来の誠心発掘委員会



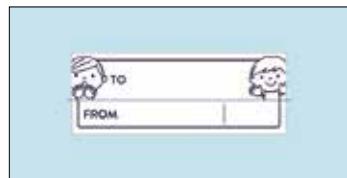
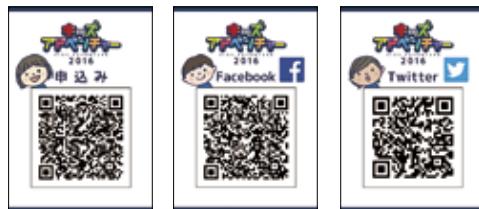
未来の誠心発掘事業(7月29日～31日「キッズアドベンチャー 2016」)
ポスター・チラシ(日本語版・英語版)・しおり(日本語版・英語版)・
ボランティア募集チラシ











ホームページバナー

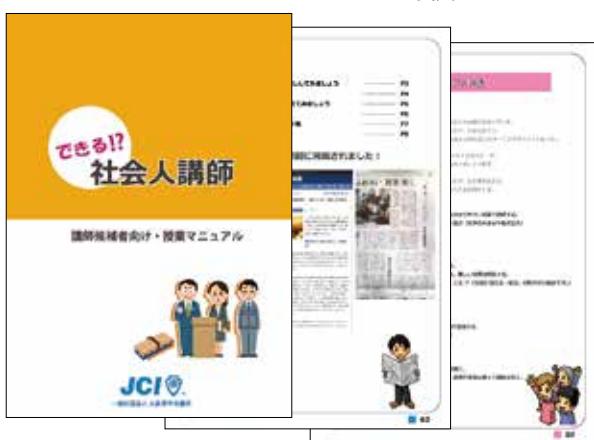
QRコード(+facebook用・Twitter用)・IDカード・ポイントシール・封筒ステッカー
ビブス(児童用・大人用)・キャップ・手ぬぐい・プレスリリース(5p)

社会の誠心継承委員会



表面

裏面



社会人講師事業(4月～隨時)

チラシ・バナー・Facebookバナー

社会人講師育成マニュアル(10p)・社会人講師登録証・プレスリリース(2p)

子どもの誠心育成委員会



外面



中面



子どもの誠心育成事業(5月1日「わんぱく相撲」)
ポスター・募集チラシ・パンフレット(30p)
バナー(Facebook・ホームページ・朝礼ジャック・協賛)
封筒・プレスリリース(2p)

大阪の誠心創造委員会



裏面



大阪の誠心創造事業(6月12日、7月10日、8月7日「M-1ボランティア大阪」)
ポスター・チラシ
ホームページバナー・ビラス・プレスリリース

大阪の未来選択委員会



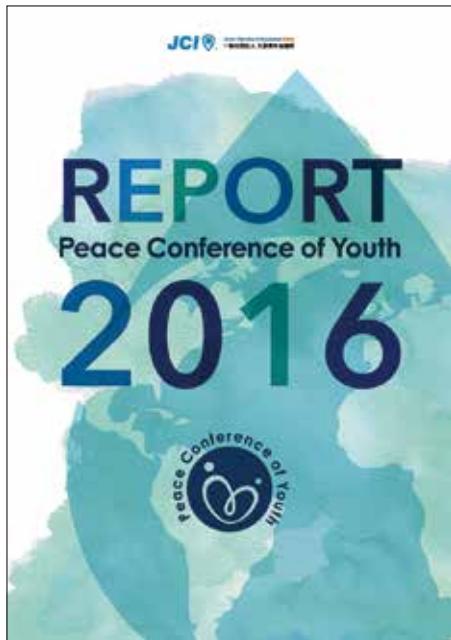
表面



大阪の未来選択事業(6月12日「ULTRA VOTE PROJECT」)
チラシ・ホームページバナー・ステッカー・SNS用吹き出し
プレスリリース

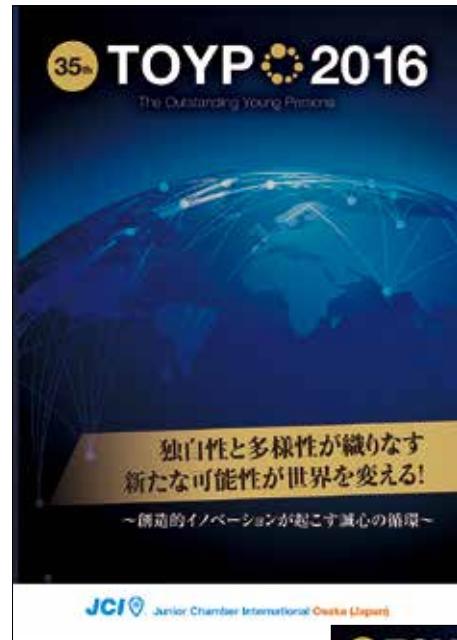


次代の誠心育成委員会



次代の誠心育成事業(8月30日～9月3日「PCY 1st本体事業」)
PCYレポート(30p)

世界の誠心循環委員会



世界の誠心循環事業
(9月1日～7日「TOYP事業」)
TOYPレポート(32p)・TOYPバナー



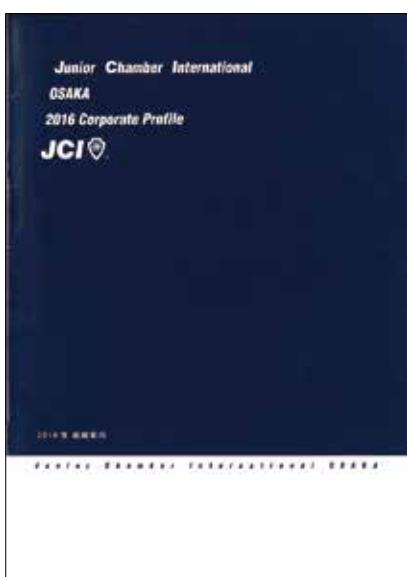


裏面



世界の誠心循環事業(9月3日「World EXPO 2016」)
World EXPO 2016／ポスター・チラシ・ロゴ・チケット・バナー・プレスリリース(2p)

JCI 大阪発信委員会



対外・対内向け広報(通年)
広報誌『Sencia』(12p)・ファクトブック(12p)

会員交流委員会



新年名刺交換会(1月6日)
パンフレット

外面

中面



表面



裏面



会員交流事業(10月15日「J-nation」)
チラシ・バナー

資質向上委員会



表紙



中面

会員大会(12月8日)
式次第・ナプキンリング・
卒業生記念品USBカード

編集後記

2016年度、一般社団法人 大阪青年会議所は、城阪千太郎理事長の掲げる「誠心響き合う共創都市大阪の実現～優しく強いしなやかな誠心を磨き合い未来を拓こう！～」をスローガンに、1年間さまざまな運動を展開いたしました。

特に本年は公益社団法人日本青年会議所第65代会頭に山本樹育特別顧問を輩出させていただいた年でもあり、大阪青年会議所全会員が一丸となって大阪だけでなく、日本中で活動させていただくことが出来ました。

私たちの団体の理念、活動の目的・内容・成果を一人でも多くの皆様にご理解をいただくために、本書を編集させていただきました。

大阪青年会議所の活動にご共感いただき、今後ますます社会貢献活動の輪が広がれば幸いです。

最後に、多大なるご協力をいただきました大阪市をはじめとする行政機関、関係諸団体、メディア、企業、市民の全ての方々に心より感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

総務室 JCI大阪発信委員会
委員長 稲所 貴一

企画・編集 JCI大阪発信委員会

発 行 一般社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番30号オーハーク4番街401号

TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163

<http://www.osaka-jc.or.jp>

発 行 日 2017年3月 制作／株式会社 どりむ社 印刷／株式会社 恒和プロダクト

誠
意

心

城
阪
千
太
郎